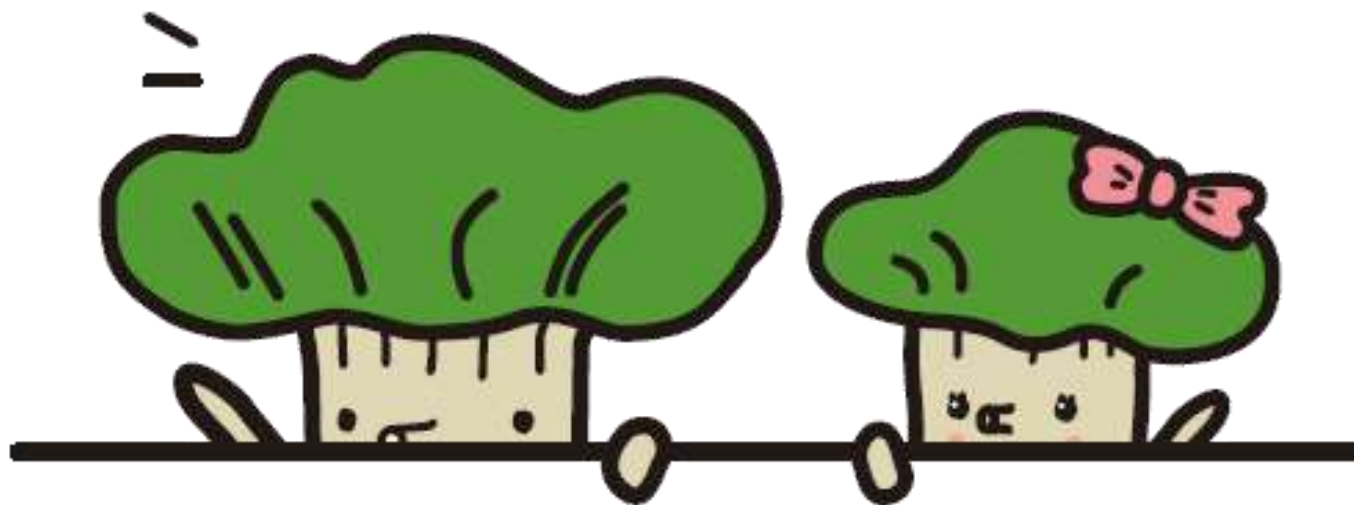


2025年3月期 第2四半期（中間期）決算  
決算概況と今後の事業展開について



つなぐを化学する  
荒川化学工業株式会社

2024.12.2

取締役社長 高木 信之 / 常務取締役 延廣 徹 / 取締役 富宅 伸幸

# 目次

**1** 決算概況と今期予想

**2** セグメント別情報

**3** サステイナビリティへの取り組み

参考資料

**1**

## **決算概況と今期予想**

# 決算概況のポイント

## ポイント①：2025年3月期第2四半期（中間期）決算

- ・前年比では全セグメントで増収増益。（「粘接着・バイオマス」セグメントは赤字縮小）

電子部品の需要回復に伴う増販やアジアでの紙力増強剤が堅調に推移。

- ・千葉アルコン製造は第1四半期の設備不具合から復旧も、断続的な生産により営業利益を押し下げ、前回予想より下振れ。

## ポイント②：2025年3月期通期連結業績予想

- ・前年比では全セグメントで増収増益。（「粘接着・バイオマス」セグメントは赤字縮小）

電子部品の需要回復に伴い「機能性コーティング」「ファイン・エレクトロニクス」は大きく増益。

「製紙・環境」は前期に引き続き海外で増販。

- ・全セグメントで上期の基調継続を見込み、売上高は前回予想並み、利益面では千葉アルコン製造の稼働状況を織り込み下方修正。

# 2024年度上期の実績

(百万円)

	2023年度 上期	2024年度 上期	上段：増減額 下段：増減率
売上高	34,672	39,327	4,655 13.4%
営業利益	△1,827	313	2,141 —
経常利益	△1,451	313	1,765 —
親会社株主に帰属する 中間純利益	△753	1,634	2,387 —
EBITDA	952	3,023	2,071 217.6%

■ 2024年度上期：2024年4月～2024年9月の累計

■ EBITDA：償却前営業利益 = 営業利益 + 減価償却費 + のれん償却額

# 連結業績と今期予想

(百万円)

上段：百万円 下段：増減率 (予想比のみ増減額)	2021年度	2022年度	2023年度	2024年度 (今回予想)	2024年度 (前回予想)
売上高	80,515	79,431	72,222	82,000	82,600
	14.1 %	△1.3 %	△9.1%	13.5%	△600
営業利益	3,304	△2,907	△2,617	1,500	2,200
	1.4 %	—	—	—	△700
経常利益	3,566	△2,687	△2,412	1,200	1,900
	△2.3 %	—	—	—	△700
親会社株主に帰属する 当期純利益	1,502	△4,941	△1,042	2,100	2,100
	△30.7 %	—	—	—	—
EBITDA	6,500	1,569	3,190	7,200	7,900
	1.2 %	△75.9 %	103.3	125.7 %	△700
ROE	2.6 %	△8.7 %	△1.9%	3.7 %	3.7%

【2024年度 期初】 為替レート的前提条件 ① 1 USD = 145円 ② 1 EUR = 155円

【2024年度 下期】 為替レート的前提条件 ① 1 USD = 155円 ② 1 EUR = 165円

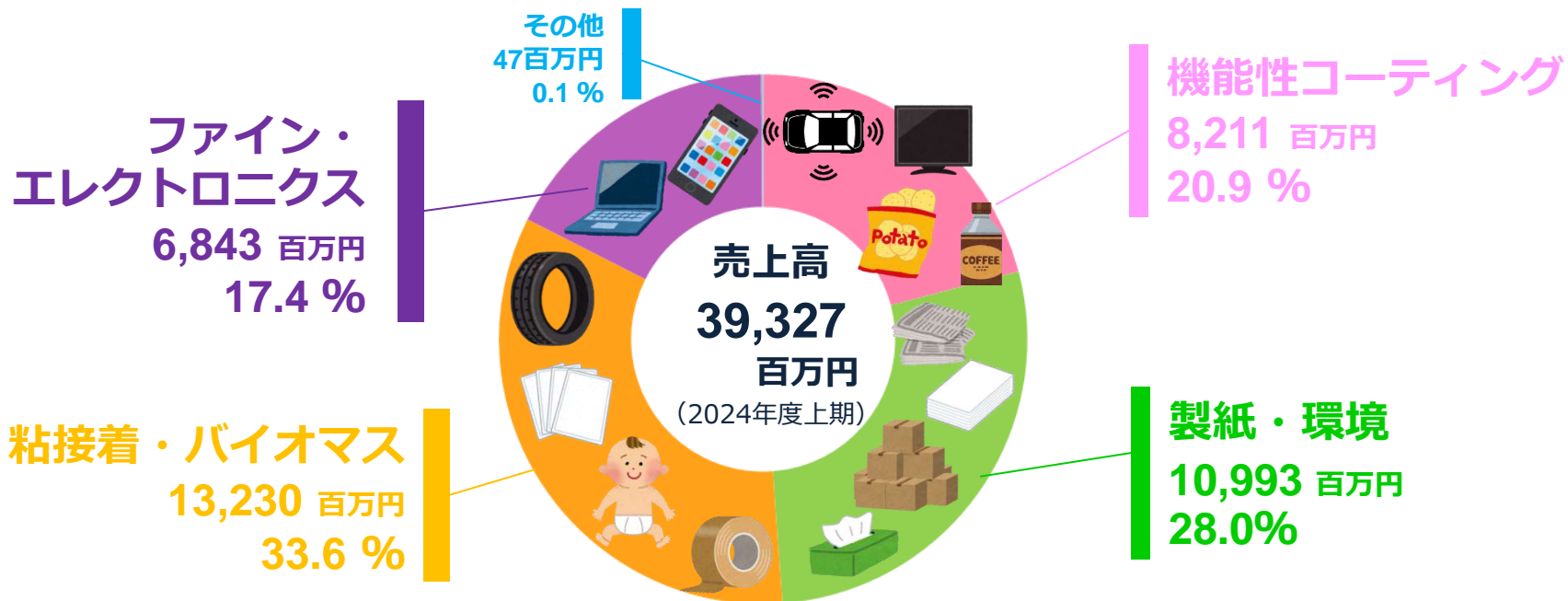


2

## セグメント別情報



# セグメント別売上高



機能性コーティング	光硬化型樹脂、熱硬化型樹脂、印刷インキ用樹脂、塗料用樹脂 等
製紙・環境	紙力増強剤、サイズ剤、新規水系ポリマー 等
粘接着・バイオマス	水素化石油樹脂、粘着・接着剤用樹脂、超淡色ロジン、合成ゴム重合用乳化剤 等
ファイン・エレクトロニクス	精密部品洗浄剤および洗浄装置、低誘電ポリイミド樹脂、ファインケミカル製品、電子材料用配合製品、精密研磨剤 等

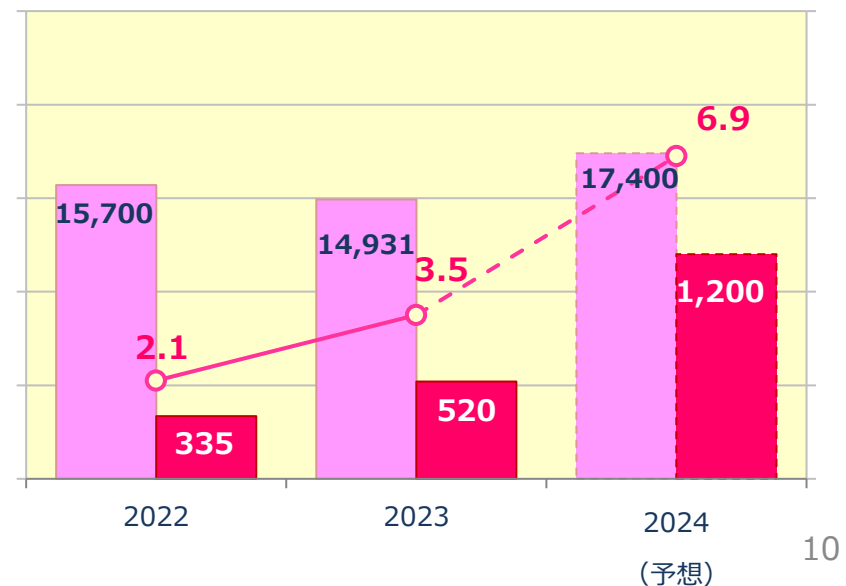
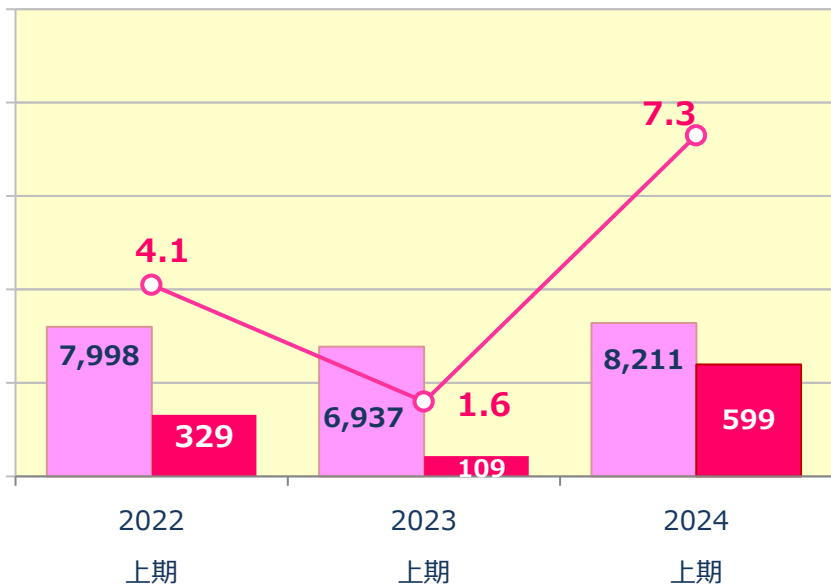
■ 光硬化型樹脂はスマートフォンやディスプレイ関連分野での需要回復

2024年度見通し

■ 主力である光硬化型樹脂の販売は堅調に推移する見込み

■ 売上高 ■ セグメント利益 ○—利益率 (%)

(百万円)



# 光硬化型樹脂（ビームセット・オプスター）

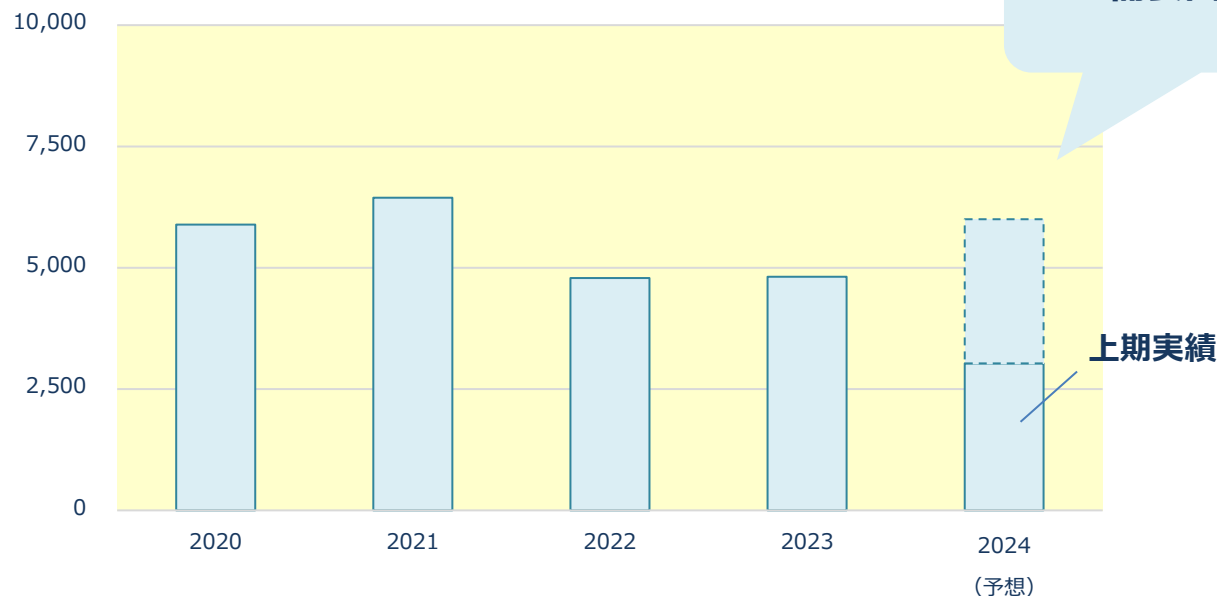


 : サステナビリティ製品

- 光で瞬時に固まり、省エネルギー、環境負荷低減（VOC削減）
- 要求特性を実現する樹脂設計と配合技術力
- フィルムコーティングの高機能化に
- 生産能力増強予定：富士工場に新生産設備（2024年2月完工）



売上高  
(百万円)



需要回復見込み

上期実績

■ ディスプレイ      ■ 自動車関連



- IC生産工程用
- インデックスマッチング
- 印刷インキ・塗料
- クリアワニス

- アジアでの需要の創出に注力している板紙向け紙力増強剤が堅調に推移したことなどにより、大幅に増益

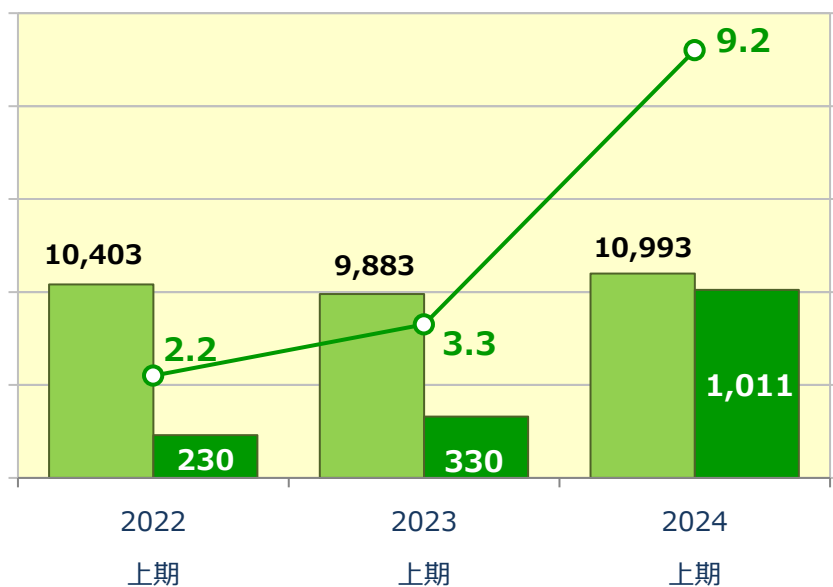
## 2024年度見通し

- 国内における販売は低調も、アジア地域での販売は引き続き堅調に推移する見込み

売上高
  セグメント利益
 

 利益率 (%)

(百万円)



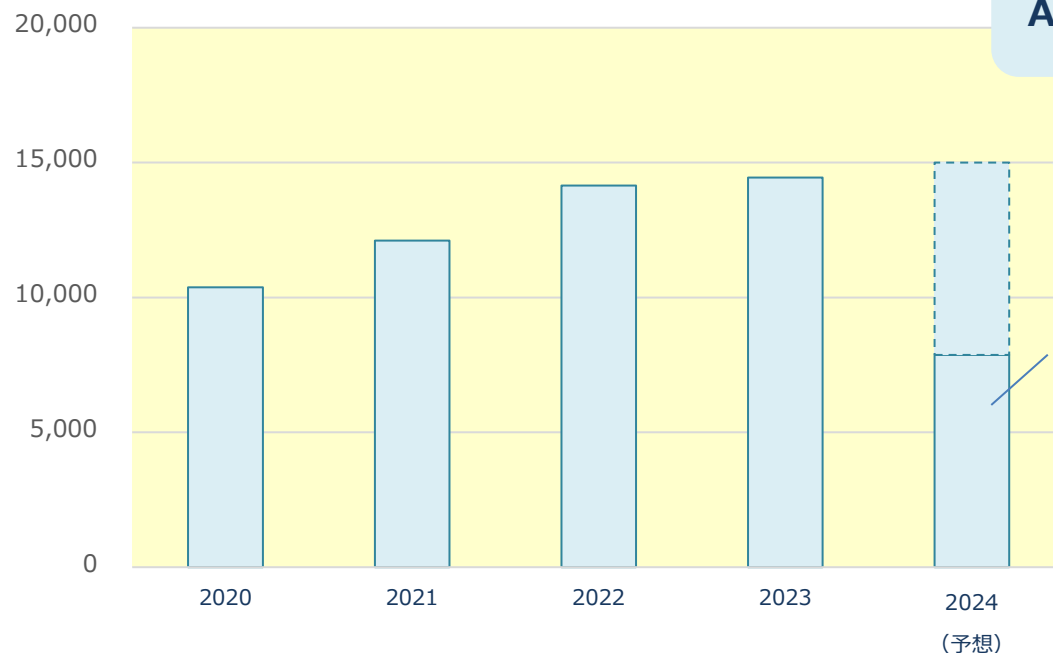
# 紙力増強剤 (ポリストロン)



- パルプ繊維同士をつなぎ、紙の力を向上させる
- ポリアクリルアミド (PAM) 系紙力増強剤の拡大  
⇒ 販売地域を中国・台湾からASEANに拡大し、**古紙リサイクル促進に貢献**
- 荒川ケミカルベトナム社が2022年3月に稼働し、生産・販売を開始  
2023年は荒川ケミカルベトナム社の稼働率がアップ  
⇒ **ASEAN向けのさらなる拡販による成果の最大化を目指していく**

 : サステナビリティ製品

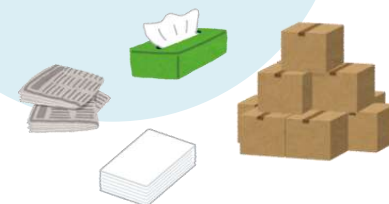
売上高  
(百万円)



国内は低調も、  
ASEAN地域での拡販が進む



- 板紙向け紙力増強剤  
⇒ 段ボールの薄型化に対応
- 上質紙・コート原紙等の洋紙  
まで幅広い用途に使用



■ 千葉アルコン製造株式会社は、稼働の再開後も断続的な生産を余儀なくされており、水素化石油樹脂の収益を押し下げ

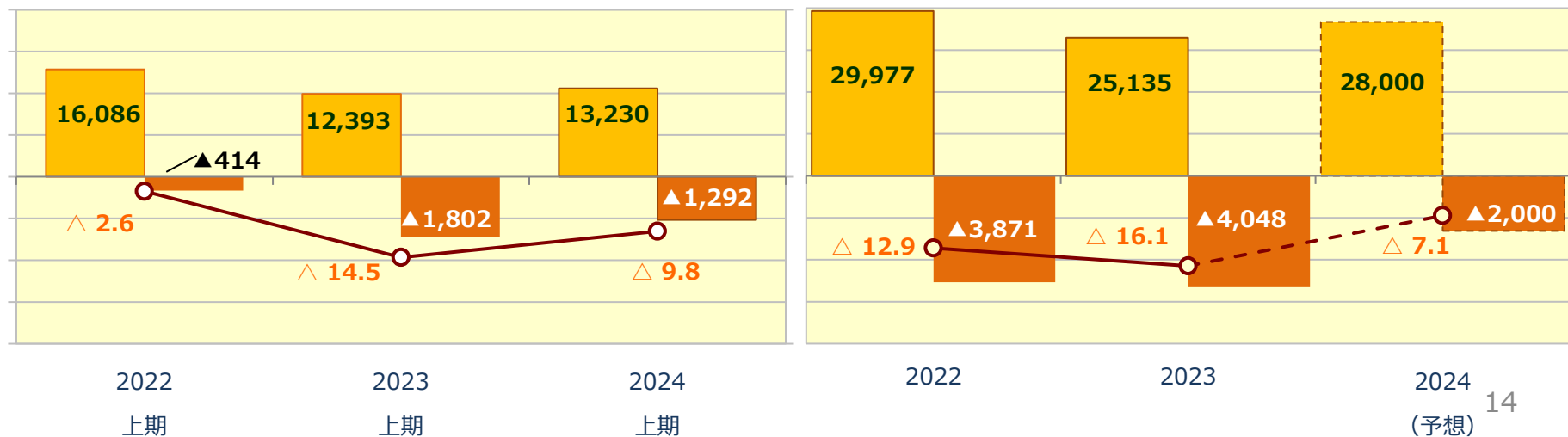
■ ロジン系の粘着・接着剤用樹脂は、アジア地域を中心に販売が堅調に推移

## 2024年度見通し

■ 千葉アルコン製造株式会社の状況を鑑み、売上高は下方修正、セグメント損失は当初予想よりさらに赤字となる見込み

■ 売上高 ■ セグメント利益 ○ 利益率 (%)

(百万円)



# 水素化石油樹脂 (アルコン)

水島工場

- C9留分を無色無臭の白物樹脂として世界で初めて工業化に成功（1965年上市）
- 高圧水素化技術のノウハウを保有

荒川ヨーロッパ社

- 1998年にアルコンの製造技術をライセンスしたダウ・ケミカル社より2010年に原料油から水素化石油樹脂の一貫製造設備を譲受
- 2023年にウクライナ情勢により欧州での製造を終了し、販社に役割変更

千葉アルコン社

- コスモEHD、丸善石油化学と3社で合併設立（当社51%）
- 2023年5月に一貫製造設備完工し、2024年3月から商用販売開始



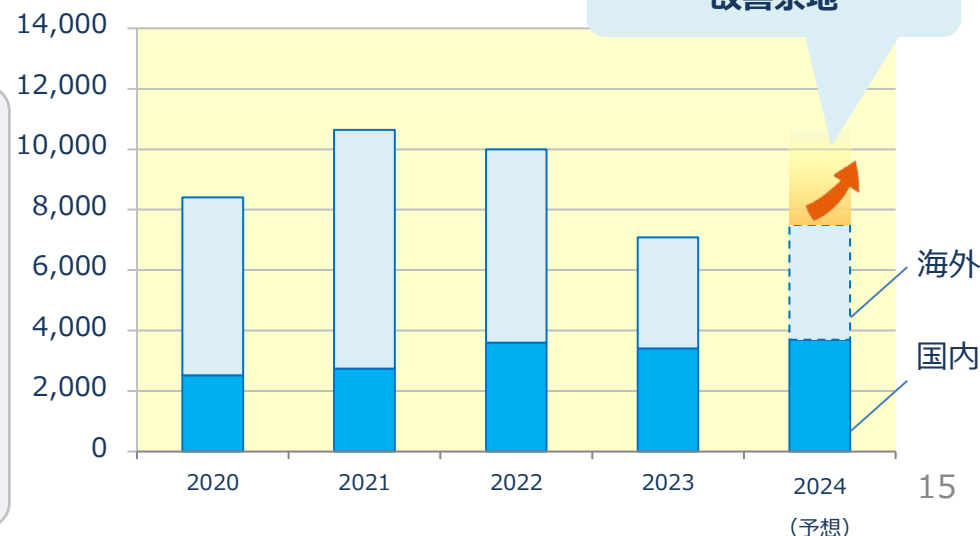
▼水素化石油樹脂「アルコン」

## 【千葉アルコン社の状況と取り組み】

- 各グレードにおいて合格品の製造は達成
- 連続稼働のためにスペアパーツやバッファの見直し
- 毎年の定期修繕期間の短縮
- フィルムの改質剤など接着剤原料用途以外への増販および用途開発

高圧工程もある連続プラントであり、定修毎に段階的ながら生産能力を活かせるように施策を進めている

売上高  
(百万円)



# ロジン誘導体（ロジンエステル・樹脂エマルジョン等）



：サステナビリティ製品

■ロジン誘導体は、アジアで堅調

■バイオマス素材として貢献、訴求していく

## ～樹脂エマルジョン TOPICS～

環境負荷低減に貢献！

★「エマルジョン型タッキファイヤーの開発」による貢献や進歩を評価され、

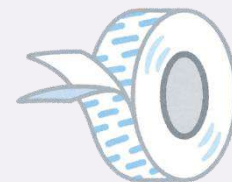
「2024年度日本接着学会技術賞」を受賞

★特長

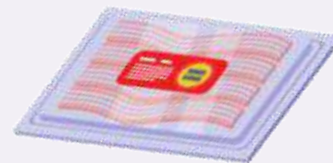
高い乳化技術による高品質な製品、低VOC製品、高耐水性製品

★用途

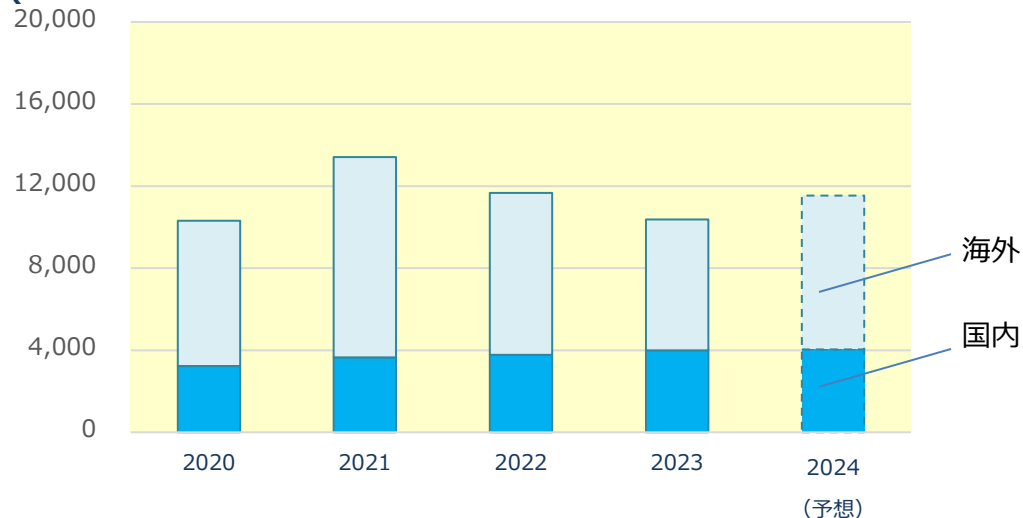
食品ラベル、包装材料、建材・自動車向けテープ用粘着剤など



ラベルイメージ



売上高  
(百万円)



～授賞式の様子～



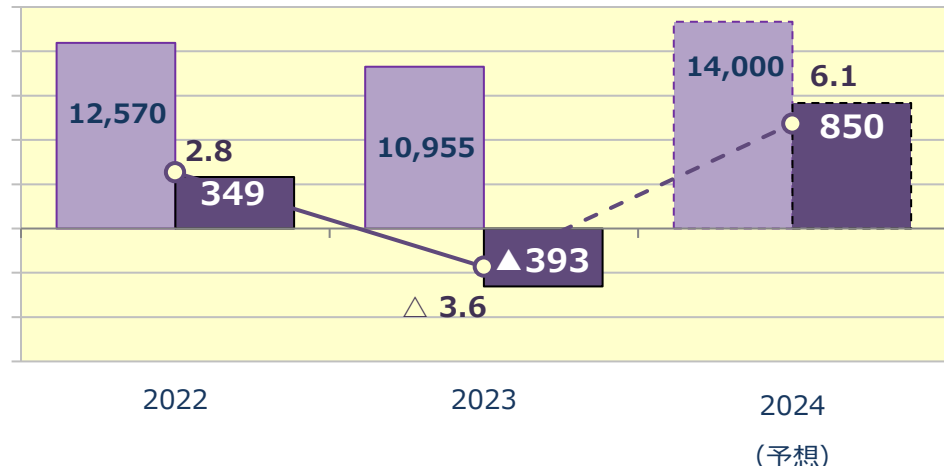
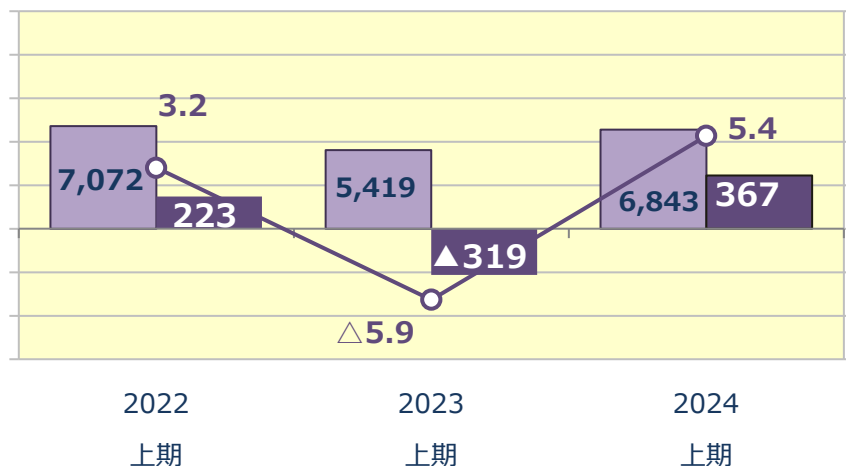


- 将来に向けて生産能力増強を進めている半導体関連先端材料の  
ファインケミカル製品やハードディスク用精密研磨剤などが堅調に推移

## 2024年度見通し

- 半導体市況は回復見込み・データセンター投資は活況のため、  
ファインケミカル製品、ハードディスク用精密研磨剤、電子材料用配合製品が  
堅調に推移する見込み

売上高
  セグメント利益
  利益率 (%)
 (百万円)



# ファインケミカル製品

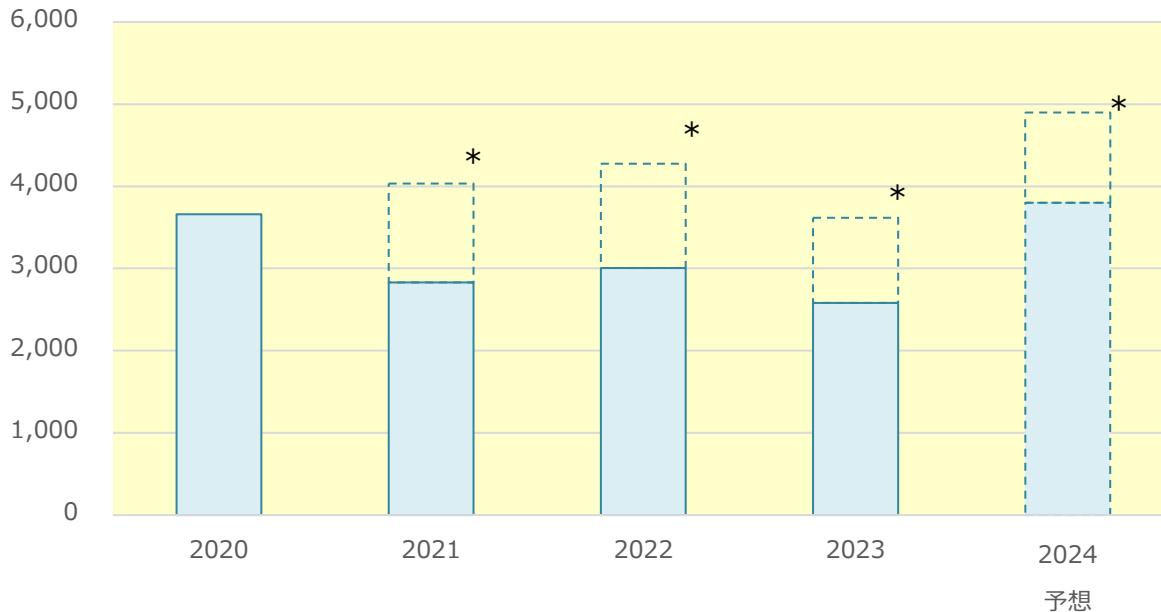


：一部サステナビリティ製品あり

## 高圧化学工業

- ファインケミカル製品(中間素材)を**高度な品質管理体制下**で受託製造
- 耐腐食性高圧反応設備（**ハステロイ製**）で高付加価値化  
⇒アルカリから酸条件下の広範囲のpH域での使用に対応でき、通常材質では腐食を伴う反応でも生産が可能に
- 水島工場に**新生産設備完工予定（2024年12月完工予定）**

売上高  
(百万円)



- 電子材料用途
- 医薬品用途

\* 新収益基準の減少分

# 精密研磨剤 (Neopolish)

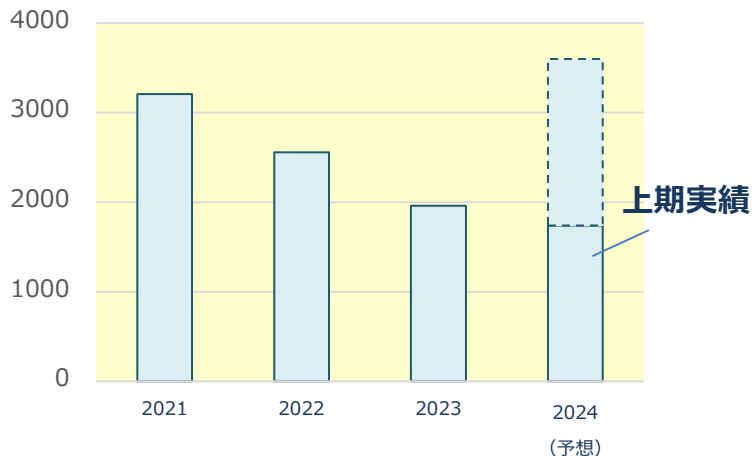
## 山口精研工業

ノートPC等の市場はSSDが優勢も、大容量化が進むデータセンター市場はHDDの需要拡大。HDD基板は高容量のための薄型化、面品質の向上とコスト削減でアルミ基板とガラス基板がしのぎを削る。

- アルミ磁気ディスク用研磨剤を主体に各種金属などの鏡面研磨剤を扱う
- 薄型化に対応した研磨剤開発に注力
- 生産能力増強：需要増加に備え、2023年11月第2工場完工



売上高  
(百万円)



第2工場 外観



竣工式の様子

# 新規事業関連

## ライフサイエンス関連テーマ

水系ポリマーやフォレストケミカル（ロジン）等のコア技術を駆使

### ■再生医療

⇒PDMS親水化剤等を提案

### ■松から得られる天然由来物質の開発品

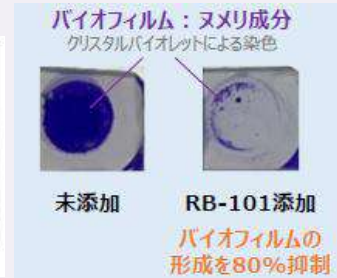
⇒アビエチン酸系抗菌・抗バイオフィルム剤



松



アビエチン酸誘導体



### ■アグリ

⇒アグリ関連資材

⇒種子・肥料コーティング剤

ロジンを原料にした**バイオスティミュラント（2025年商品化）**

植物の生育促進や虫害低減などの効果を確認

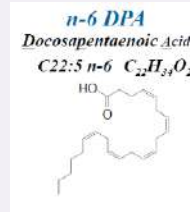
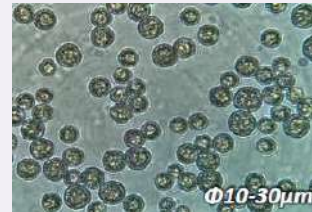
☑なす、サツマイモ、ほうれんそうなどの収穫量アップ

☑ハダニの行動を抑制する効果

### ■ライフサイエンス

⇒微細藻オーランチオキトリウム

（2024年1月SoPros株式会社へ資本参加）



## 水系ポリマー技術関連

### ■PFAS規制対応

**非フッ素系“内添”耐油剤を開発**

端面耐油性の改善、通気性と耐油性を両立

機能性水系コーティング剤（紙の耐油化剤）



# 海外売上高・比率 推移

■ 中国・アジアの需要が堅調に推移していることから、海外売上高比率は増加

## 2024年度見通し

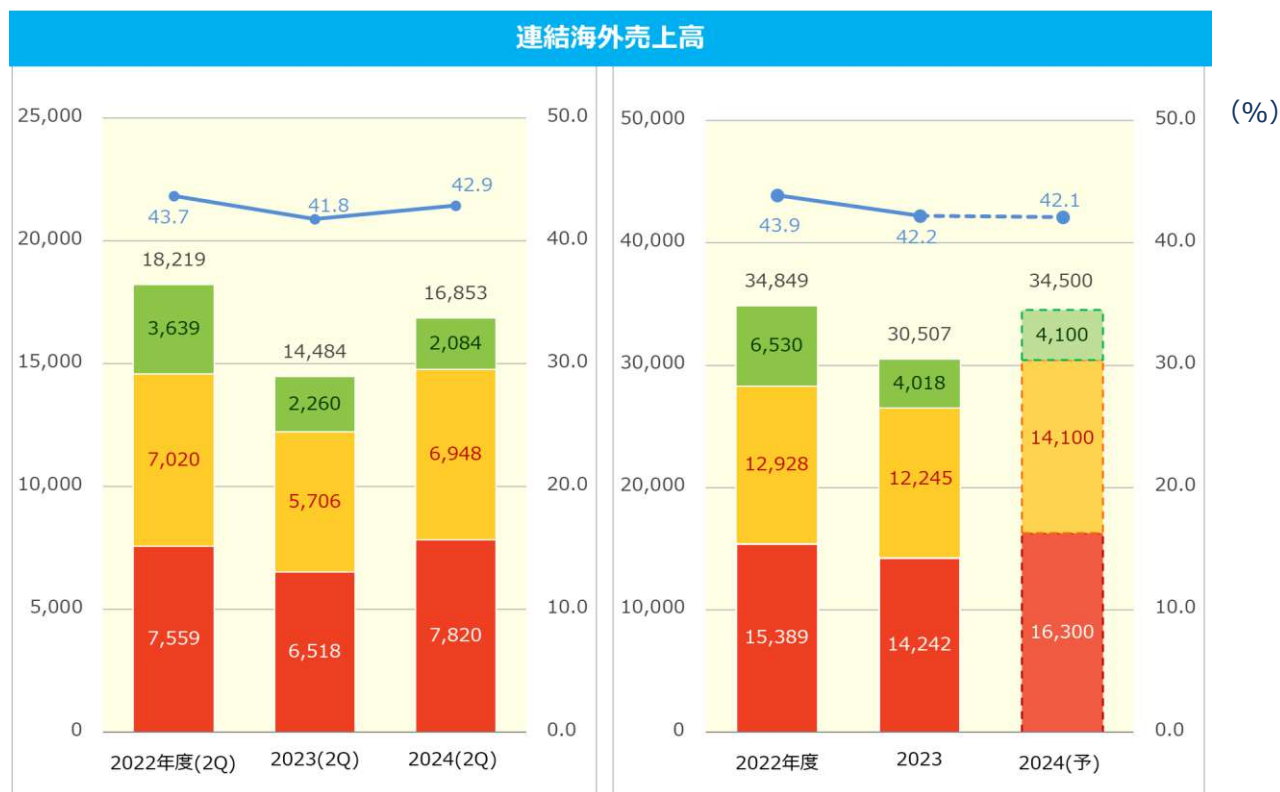
■ アジア地域では引き続き紙力増強剤の需要が見込まれ、

中国では粘着・接着剤用樹脂の需要が堅調に推移する見込み。

国内での売り上げ増加も見込んでおり、海外売上高の比率は42.1%となる見込み

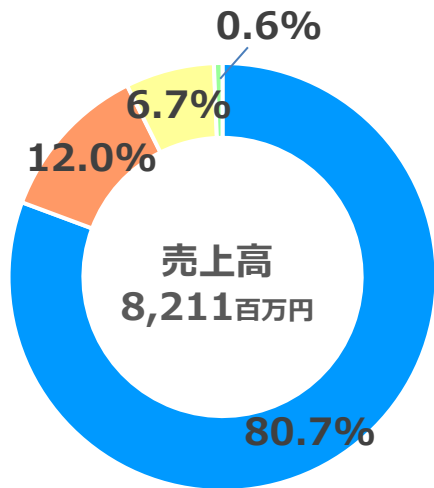
(百万円)

■ 中国 ■ アジア（中国含まず） ■ 南北アメリカ、ヨーロッパ、その他

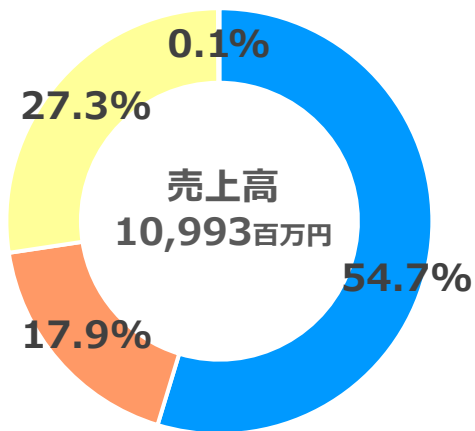


# 地域別・セグメント別売上高比率

機能性コーティング



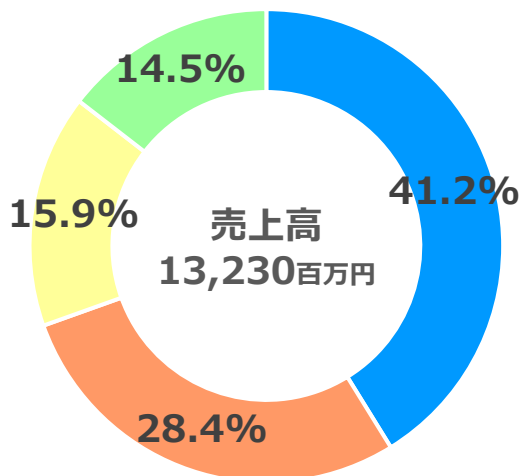
製紙・環境



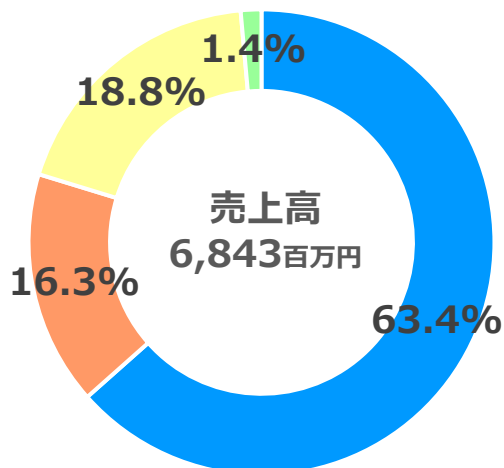
日本  
中国  
アジア（中国除く）  
南北アメリカ・ヨーロッパ



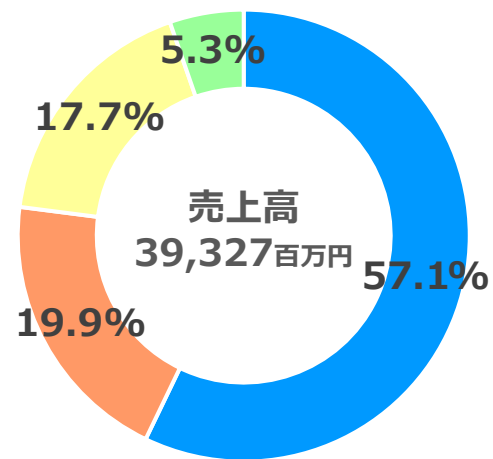
粘接着・バイオマス



ファイン・エレクトロニクス



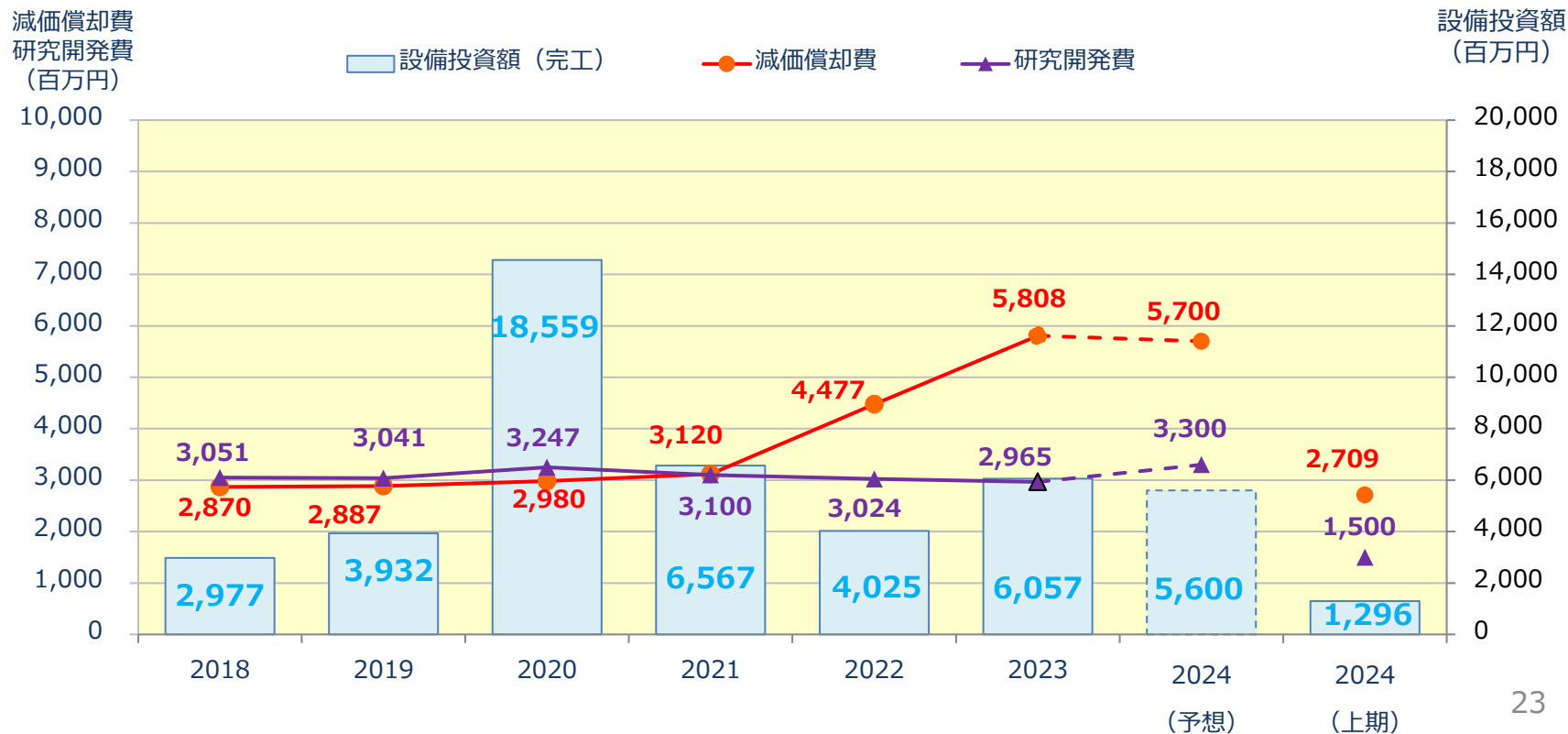
計



# 設備投資および研究開発費

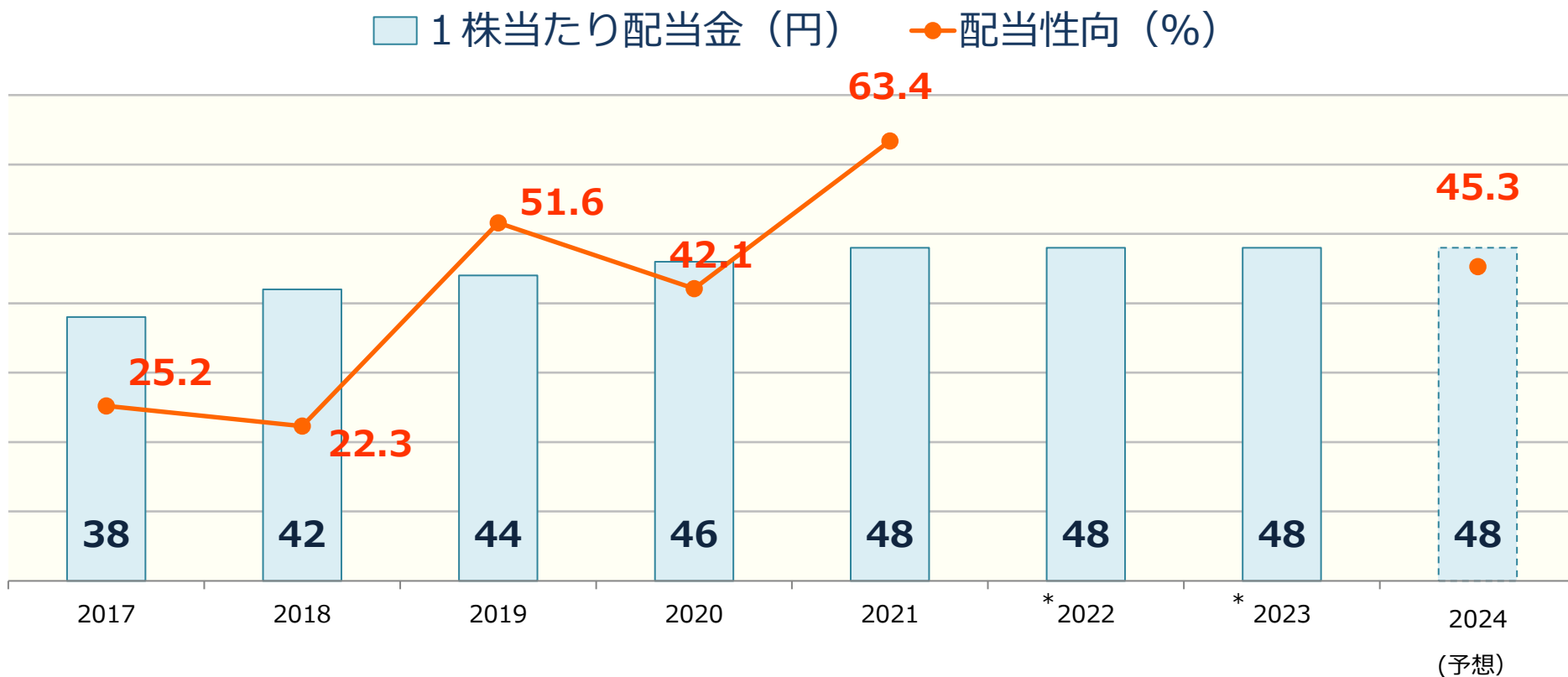
## 2024年度見通し

- ・設備投資：水島工場でのファインケミカルプラント建設の投資があり、56億円となる見込み（2024年12月完工）
- ・減価償却：千葉アルコン製造・2023年度に完成した富士工場の光硬化型樹脂プラント・山口精研工業の第2工場の償却費計上予定のため、57億円となる見込み



# 配当金の推移

■ 当期配当については、事業ポートフォリオ改革及び成長分野への投資による高付加価値製品のさらなる伸長を目指し、安定的かつ継続的な配当を維持し、1株当たり年間配当金48円を維持する予定



\*2022年度・2023年度は当期純損失のため、配当性向を記載しておりません



# 3 サステイナビリティへの取り組み

# サステナビリティへの取り組み

## KIZUNA指標

### ■ 2050年CO<sub>2</sub>排出量実質ゼロに向けた取り組み

**2023年度CO<sub>2</sub>排出量実績：53.0%削減**（2015年度比）  
2025年度CO<sub>2</sub>排出量：30%削減→**50%削減**（2015年度比）  
2030年度CO<sub>2</sub>排出量：**50%以上削減**（2015年度比）\*

\*現時点では日本国内グループ（千葉アルコン製造(株)を含まず）を対象。対象範囲の拡大や削減率については次期中計で改めて検討予定



👉詳細はクリック

## KIZUNA指標詳細

- ✓コミュニケーション
- ✓人財育成
- ✓リスクアセスメント

荒川安全伝承館研修  
(富士工場)



保安道場  
(小名浜工場)

## 安全文化の醸成

## 働きがいと生産性の向上

## KIZUNA指標

個人と会社が  
共に成長できる環境づくり

- ✓中核人財の育成
- ✓多様な専門性の結集

## 経営指標を支える人的資本投資

- ✓組織風土の醸成  
(価値観の共有)
- ✓人事制度の設計の見直し



KIZUNAワークショップの様子

\*2024年「えるぼし」2つ星に認定されました。



# 人財育成・活躍への取り組み

当社の人財はサステナビリティの取り組みを実施する全ての基盤  
多様な人財の尊重・能力を十分に発揮する企業として課題に取り組む

## 取り組み例

### ■ 人的資本の開示

人的資本における価値創造プロセス

人的資本投資で達成したいビジョン

当社グループ経営理念および経営戦略・方針等である「ARKA 精神」を「MKI計画」を主とし、ダイバーシティ・インクルージョンの推進による創規事業の創出、働きがいと生産性を最大化し、持続的につなげることで企業価値の向上と社会貢献を追求します。

働きがいと生産性の向上 ↔ 創規事業の創出

主なKPI (=MKI計画・育成施策)

- 従業員満足度調査スコア (イキイカタイプ)
- 付加価値労働生産性
- 留任率/従業員取得率
- 高度専門人材の獲得 (実務経験者・ゼロ経験者別別)
- 海外駐在員の外国人比率
- 女性管理職人数
- 高ストレス率比率 (製造業早別)
- 障がい者雇用率
- 重要ポジション後継者準備率

人的資本経営に対する投資テーマ

多様性の確保   働きがい改革   Well-being   キャリア形成支援

### ■ メンタルヘルス： ラインケア研修

\*

メンタルヘルス 予防のレベルとケアの全体像

目的	第1次予防 (未然防止)	第2次予防 (早期発見と対処)	第3次予防 (職場復帰支援)
セルフケア (労働者)	ストレスの気づきと対処法を知る		
	心身の健康の把握	自発的な相談	出資・意図的
ラインケア (管理監督者)	労働者に対する相談対応・関係各所との連携		
	快適な職場環境づくり	早期発見・早期対応	職場復帰支援
事業・関与保健 スタッフ・事業 関係者等によるケア	必要な情報・教員の習性、関係各所との連携		
	組織への発言	メンタルヘルスの 現状把握	職場復帰プログラム
	相談窓口	相談しやすい環境整備	管理監督者への助言

© Mental link inc. 10

\*引用：ラインケア研修 宮本剛志氏

### ■ 育成面談勉強会

荏川化学工業株式会社  
ARAKAWA CHEMICAL INDUSTRIES, LTD.  
つねぐと化学する

育成面談勉強会  
～評価フィードバックにフォーカスして～

■ 本日の目次

- ▶ 事前アンケート振り返り
- ▶ 育成面談 フィードバック方法変更
- ▶ 育成面談目的
- ▶ 育成面談 働き方・話し方のポイント
- ▶ アサーティブな発信のコツ

評価が、誰とや弊社を決めるだけのものではなく、部下が会社からの期待に応え、成長につながるものとするために、育成面談は重要な役割を果たします。

# 次代へつなぐ取り組み

## 開発目標

4 質の高い教育を  
みんなに



15 陸の豊かさも  
守ろう



## 荒川化学が提供する価値



- ・「楽しく化学する」を基本とした体験学習の実施
- ・2023年度よりYUNGA Forests Challenge Badges プログラムを実施（上段、下段右写真）  
詳細は当社HPの[新着情報](#)よりご確認ください
- ・若手、中堅社員の海外研修制度
- ・先進国およびその他の開発途上国における  
高等教育の奨学金制度
- ・地域社会と連携した石積み体験により、KIZUNAへの自己理解を深める研修を実施（下段左）

## 地域の松林復元に寄与する

「マツタロウの森」プロジェクト他の植林活動



## 見通しに関する注意事項

当資料に記載されている内容は、種々の前提に基づいたものであり、記載された将来計画数値、施策の実現を確約したり、保証したりするものではありません。

# 荒川化学工業株式会社





# 参考資料①

## 荒川化学の概要

- [会社概要（詳細はこちら）](#)
- [経営方針（詳細はこちら）](#)
- [創業からの歩み（詳細はこちら）](#)
- [沿革（詳細はこちら）](#)
- [所在地（詳細はこちら）](#)

## 製品情報

- 熱硬化型樹脂
- 超淡色ロジン
- 精密部品洗浄システム
- 低誘電ポリイミド樹脂
- 電子材料用配合製品
- 新規事業関連

## 取り組み事例

- [安全に対する取り組み](#)
- [ESGの取り組み](#)
- [新規事業への取り組み](#)
- [健康経営の取り組み](#)

# 参考資料②

## 第5次中期5カ年経営実行計画（補足）

- 第5次中期5カ年経営実行計画について
- 財務目標（連結）
- 財務目標（連結・セグメント別）
- 5つのKIZUNA/KIZUNA指標
- 経営理念とビジョン
- 2030年のありたい姿
- 荒川化学の未来像
- 優先的な重要課題と5つのKIZUNA
- 基本方針
- KIZUNA経営
- KIZUNA指標の進捗
- 事業ポートフォリオ改革
- セグメント組み換え
- 各セグメント計画説明資料
- 海外売上高伸長率
- SLBの発行・スキームイメージ・SPTs内容・進捗について
- サステナビリティ製品のSDGsへの貢献
- サステナビリティ製品一覧と指標への影響度

## 財務情報・その他

- 財務トピックス
- 総資産・有利子負債推移
- キャッシュフロー推移
- 第5次中計期間における当社のキャッシュ・アロケーション
- 資本コストや株価を意識した経営の実現に向けた対応
- 2024年度1Q2Q・上下期売上高/損益増減
- 売上原価・販売管理費推移
- ロジン価格の推移
- 株価推移
- 株式情報

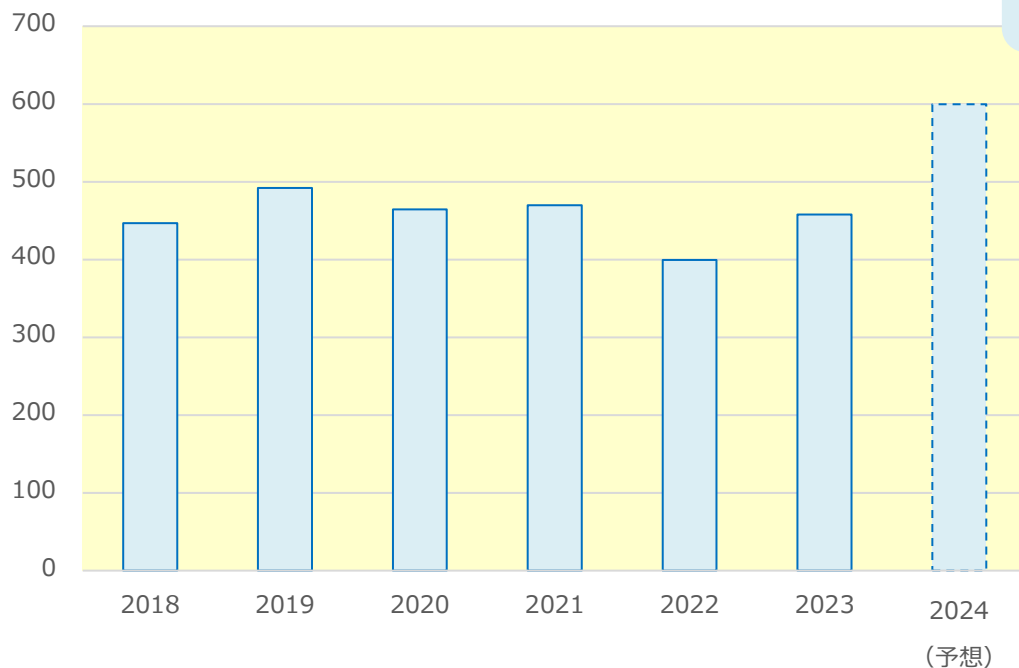
# 製品情報



# 熱硬化型樹脂 (アラコート)

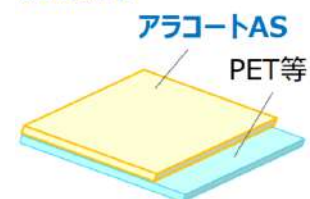
- 長年のインキ・塗料分野で培った高分子合成技術、二液硬化技術、配合技術を駆使して開発した熱硬化型機能性コーティング剤
- フィルムコーティングの**高機能化**に
- 「機能」を追求し、多様化するニーズに適した「解」を提案

売上高 (百万円)



工程用フィルムへの新規採用

(層構成例)



- 帯電防止コーティング剤
- 離型コーティング剤
- UVコーティング用アンカー剤
- 蒸着用アンカー剤
- 熱硬化型自己修復コーティング剤

# 超淡色ロジン (パインクリスタル)



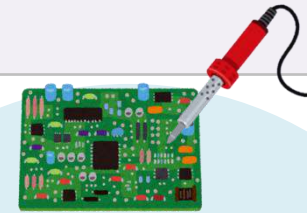
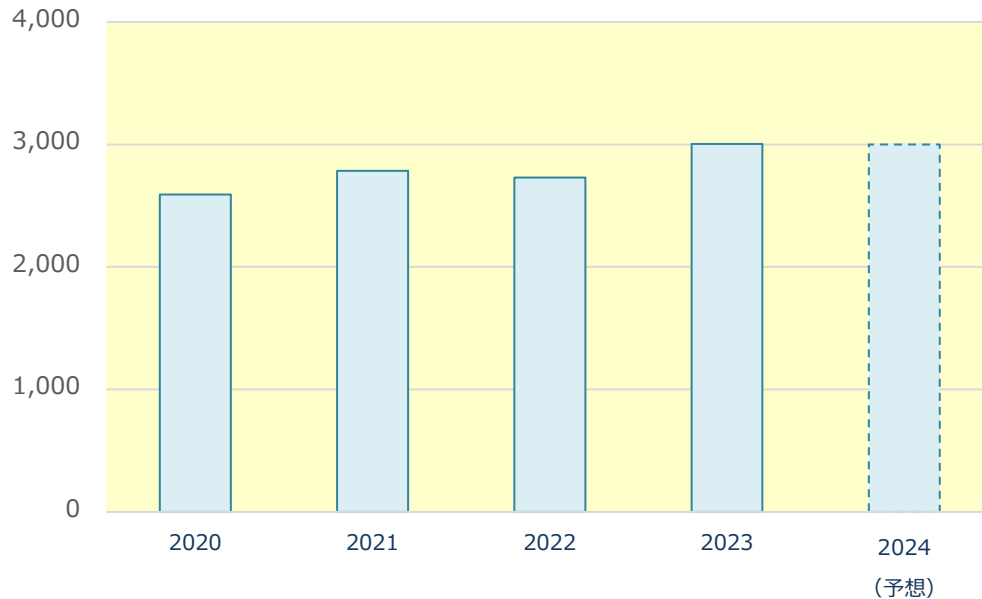
粘接着・バイオマス

 : サステナビリティ製品

- **オンリーワン**製品 (琥珀色のロジンを高圧水素化技術により無色化)
- 鉛フリーはんだ用フラックスの**業界標準**
- **ライフサイエンス**分野にも進出



売上高  
(百万円)



■ 鉛フリーはんだ用フラックス



■ 医療用貼付剤



■ 3Dプリンター関連部材



■ 光学フィルム関連部材

- **ほぼ無色、不純物が少ない**
- **熱安定性がよい**

# 精密部品洗浄システム



ファイン・エレクトロニクス

 : サステナビリティ製品

## 洗浄実験室



### ■ 2019年6月

中国販売子会社に洗浄実験室を有する東莞分公司を開設

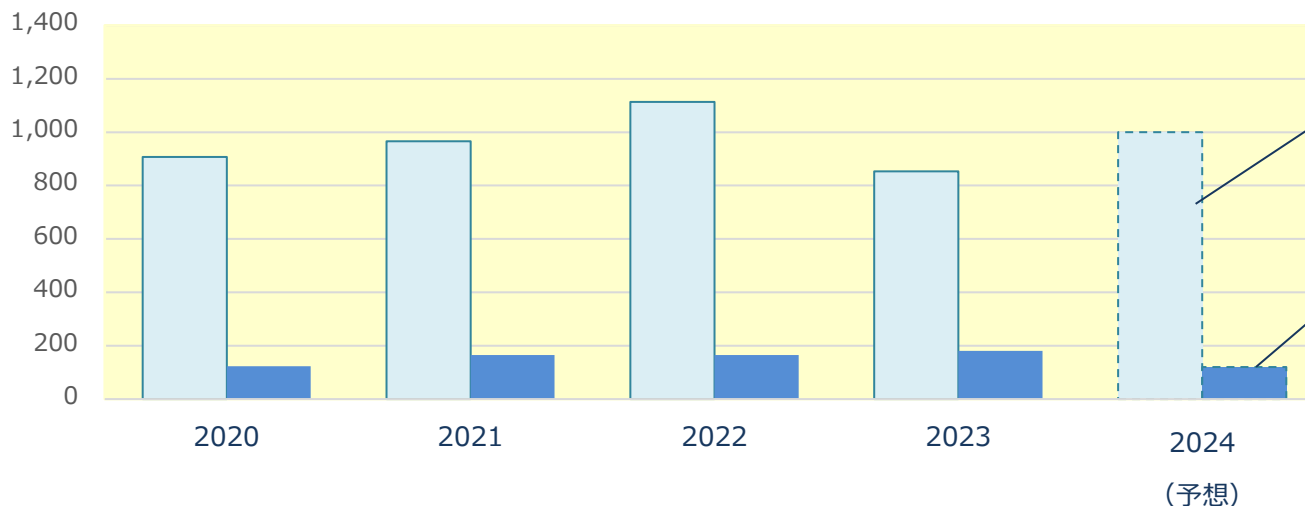
⇒精密部品洗浄事業の中国国内でのニーズに対し、

営業体制の強化および迅速なソリューション体制の提供

### ■ 廃水ゼロを目指した技術開発

売上高  
(百万円)

■ 実装基板, FC, HDDハブ, カメラモジュール,  
LED, WL-CSP, パワーデバイスなど



 : サステナビリティ製品

洗浄剤 パインアルファ

洗浄装置

# 低誘電ポリイミド樹脂 (PIAD)



: サステナビリティ製品

## 低誘電ポリイミド樹脂 (PIAD)

■ 処理データの高速化、大容量化（高周波化）に伴う電気信号の伝送損失を抑える

⇒ 次世代通信技術「5G」で使用されるミリ波に対応可能なフレキシブル基板向け

低誘電接着剤として注目される

⇒ 新たな用途開拓に向けた研究開発も強化

⇒ カーボンニュートラルトレンドを踏まえたバイオマス素材としてアピールしていく

**感光性付与品を開発（2028年頃の採用目指す）**

半導体の高性能化：複数の半導体を搭載するチップレットの再配線層（RDL）用絶縁材料

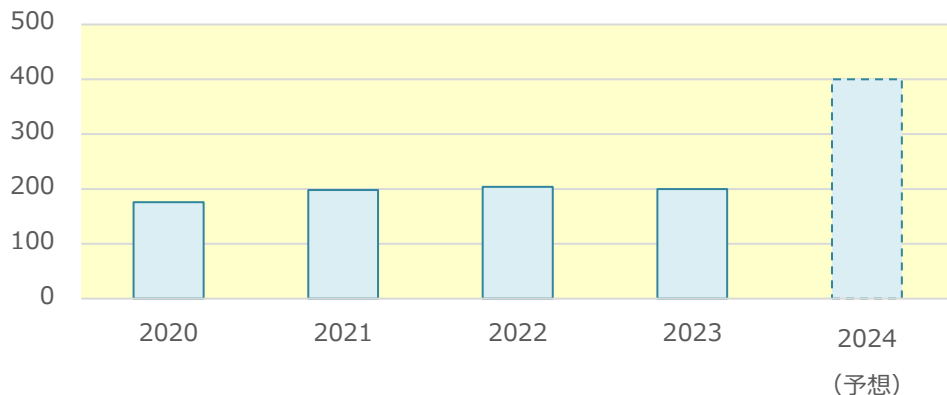


PIAD 液体外観



硬化後

売上高  
(百万円)



■ 一般社団法人日本有機資源協会の「バイオマスマーク認定」を取得  
(当社製品における取得は初めて)



バイオマス  
使用部位: ポリイミド樹脂  
No.230037

■ 製品名: PIAD252



バイオマス  
使用部位: ポリイミド樹脂  
No.230036

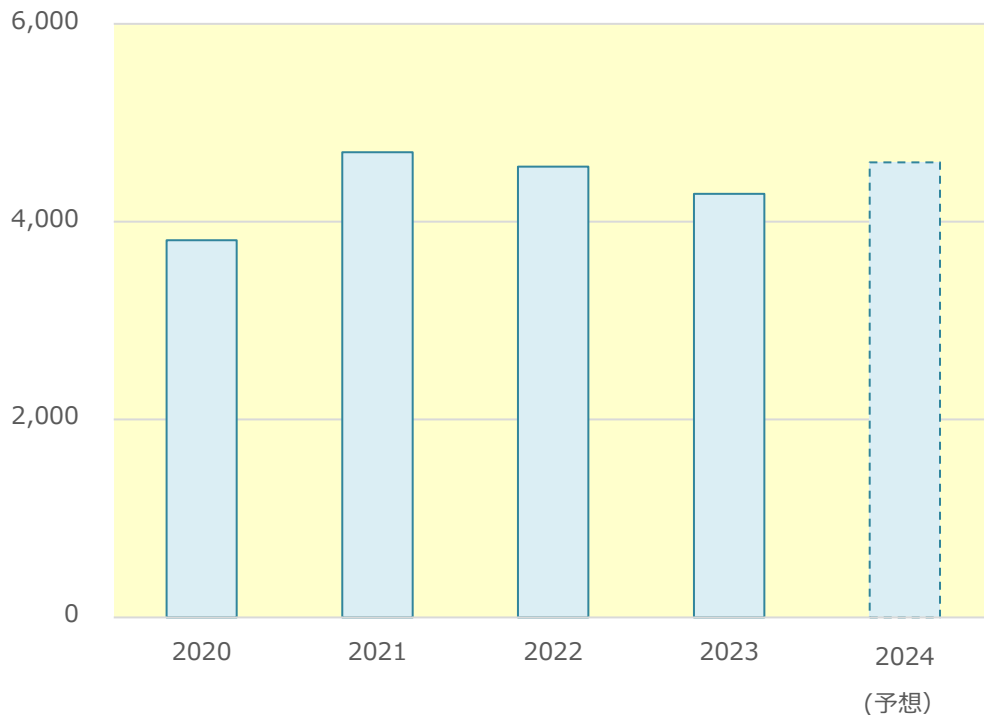
■ 製品名: PIAD152H

# 電子材料用配合製品

## ペルノックス

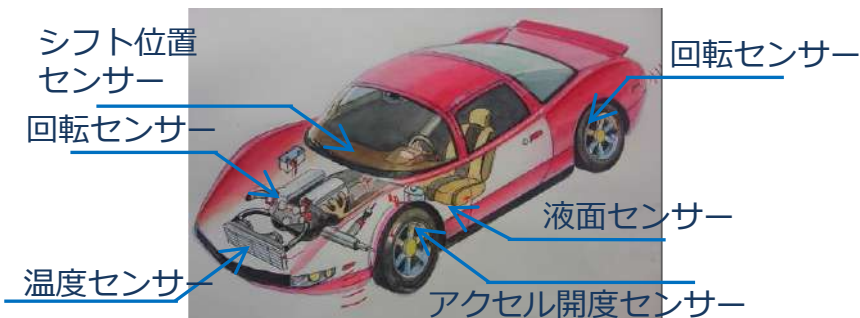
- エポキシ樹脂、シリコン樹脂などの樹脂配合技術とフィラーの配合・分散技術に強み

売上高  
(百万円)



エポキシ樹脂用途

- 半導体モジュール
- 車載電装品
- センサー



# 新規事業関連

## 微細藻類事業への参入（2024年1月 SoPros株式会社へ資本参加）

第三者割当増資引受とユニバーサル マテリアルズ インキュベーター株式会社（UMI）からの株式譲受により当社持株比率45.4%

### オーランチオキトリウム

✓ 菌株

該社独自株 沖縄やんばる産

✓ 特徴

高度不飽和脂肪酸PUFAs

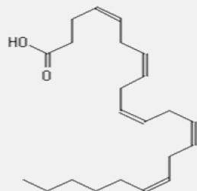
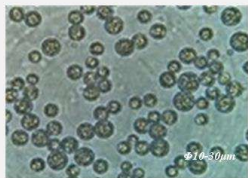
DHA、 $\omega$ -6DPAを高含有

閉鎖系タンク培養可

#### $\omega$ -6 DPA

DocosaPentaenoic Acid

C22:5 n-6 C<sub>22</sub>H<sub>34</sub>O<sub>2</sub>



✓ 微細藻配合食品 →BtoB

✓ 微細藻パウダー →BtoB

ペットフード

水産・畜産飼料向け\*

農薬原体\*

化粧品原料\*

\* 他社と共同開発中

✓ 微細藻配合健康食品 →BtoC

栄養機能食品

BtoB



### 微細藻配合味噌汁

2021年2月

BtoB

藻体含有食品 国内初

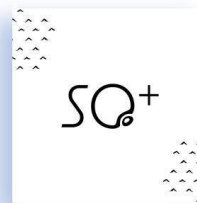


### 微細藻パウダー

2023年4月

BtoB

株式会社ユーグレナ向け



### 微細藻配合健康食品

2023年8月

BtoC 試験販売

SO+ブランディング

※DHA（ドコサヘキサエン酸）

：脳機能改善作用

$\omega$ -6DPA（ドコサペンタエン酸）

：血圧や冷え改善作用（SoPros社特許出願済み）

# 取り組み事例



# 安全に対する取り組み

開発目標

荒川化学が提供する価値

8 働きがいも  
経済成長も



荒川安全伝承館の設置

小名浜工場による保安道場活動

・安全体感装置を使用した体験型研修・保全学習を実施

安全文化の醸成活動促進

・保安力向上センターによる保安力評価受審  
(水島工場、富士工場、大阪工場、小名浜工場)









左写真：研修の様子



# ESGの取り組み

ESG（環境・社会・企業統治）経営を通し、SDGsにも関連付けながら、さらに社会に貢献する

## 環境保全や技術開発による取り組み

開発目標	荒川化学が提供する価値	
 <p>産業と技術革新の基盤をつくろう</p>	暮らしの利便性、快適性を高める製品を提供し続けるための技術開発	
 <p>つくる責任 つかう責任</p>	具体的な目標を掲げた製品ライフサイクルにおける化学物質の適正管理、産業廃棄物処理活動	
 <p>気候変動に具体的な対策を</p>	具体的な目標数値を掲げた温室効果ガス削減活動 ・「OSAKAゼロカーボンファウンデーション」に参画 ・カーボンオフセット都市ガスバイヤーズアライアンスに加盟	 



サプライチェーン全体での炭素循環、持続可能な調達を目指す

# 新規事業への取り組み

## 開発目標



## 荒川化学の取り組み

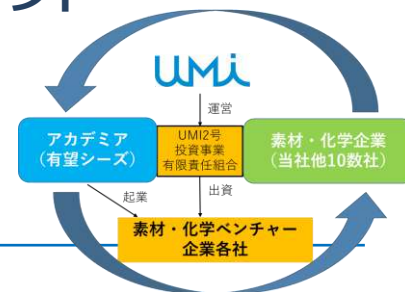
新規事業・新規テーマに関する

「社内テーマ提案・チャレンジャー育成」の運営チームを発足



ユニバーサル マテリアルズ インキュベーター社 (UMI) が運営するベンチャーファンドであるUMI2号投資事業有限組合への投資

⇒素材・化学産業に特化した日本唯一のファンド

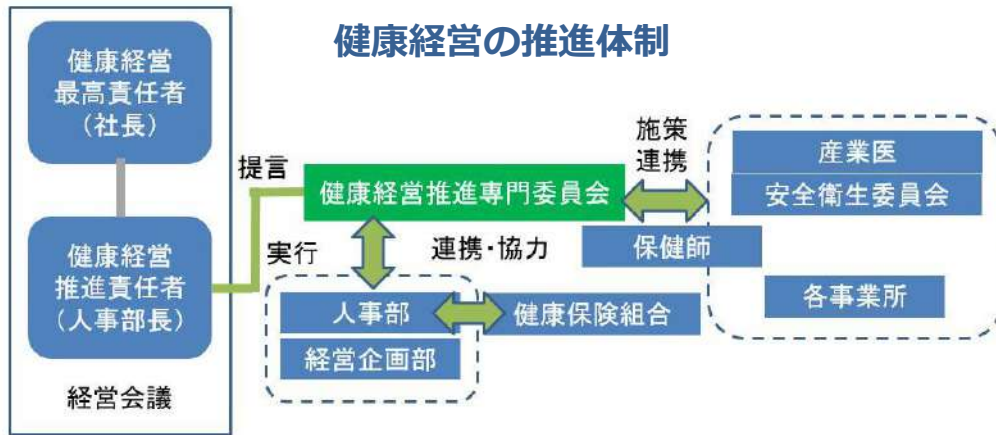


オープンイノベーションを活用した新規事業創出に取り組む

# 健康経営の取り組み

## 健康経営を通じて達成したいこと

- 従業員一人ひとりが元気に笑顔で出社できる会社づくりを行う。
- 従業員一人ひとりが仕事に集中し、能力を最大限に発揮する。
- 従業員だけでなく従業員の家族を含め、現役時はもとより退職後も健康で過ごしてもらおう。



	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度
順位	2001～ 2050位/ 2523社	1851～ 1900位/ 2869社	951～ 1000位/ 3169社	901～ 950位/ 3520社

## TOPICS

- 戦略マップ/KPIの策定
- 定期健康診断オプション検査の費用補助
- GLTD（団体長期障害所得補償保険）を導入
- 乳がんセミナー開催
- ラインケア研修・セルフケア研修の実施
- 社内報・社内イントラを使用した各事業所の取り組みの全社共有
- 各社員の趣味嗜好やライフプランに対応する福利厚生代行サービスの導入



# 第5次中期5カ年経営実行計画について (補足)

# 第5次中期5カ年経営実行計画について

2021～2025年度

## **V-ACTION** for sustainability

人と事業の新陳代謝の深化、事業基盤の持続性を確保し、

持続可能な地球環境と社会を実現するための課題に取り組み、

付加価値・新規事業の創出、安全文化の醸成、および働きがいと生産性の向上を目指す

### 中計見直しについて

- ・ 基本方針は変更せず、**最終2025年度**の計数目標と施策を見直し
- ・ 拠点やプラントの統廃合を含む既存事業の新陳代謝の加速と収益力の回復
- ・ 新規事業のステージアップ推進（みつける⇒そだてる⇒のばす）
- ・ 経営資源投入の機動性向上（安全文化の醸成、働きがいと生産性向上、人的資本投資等）
- ・ 資本コストや株価を意識した経営の実現に向けた対応

# 財務目標（連結）

（百万円）

	2021年度 実績	2022年度 実績	2023年度 実績	2024年度 予想	2025年度 当初目標	2025年度 修正目標
売上高	80,515	79,431	72,222	82,000	90,000	90,000
営業利益	3,304	△2,907	△2,617	1,500	6,500	3,500
経常利益	3,566	△2,687	△2,412	1,200	6,500	3,000
親会社株主に帰属する 当期純利益	1,502	△4,941	△1,042	2,100	4,500	2,100
営業利益率（%）	4.1	△3.7	△3.6	1.8	7.2	3.9
EBITDA*（%）	6,500/8.1	1,569/2.0	3,190/4.4	7,200/8.8	11,200/12.4	8,700/9.7
ROE（%）	2.6	△8.7	△1.9	3.7	7.0	3.6
ROIC（%）	4.9	△3.1	△2.5	1.9	-	4.0
配当性向（%）	63.4	-	-	45.3	40%を目標とする	
1株あたりの配当額（円）	48	48	48	48		

\* EBITDA：償却前営業利益＝営業利益＋減価償却費＋のれん償却額

（参考）投資額	2021年度	2022年度	2023年度 実績	2024年度 予想	2025年度 予想
設備投資額*1	6,567	4,025	6,057	約5,600	約4,000
減価償却費	3,120	4,477	5,808	約5,700	約5,200
うち千葉アルコン製造(株)	-	1,043	2,315	約1,900	約1,600
新規事業投資額*2	100	150	306	約600	約1,200

\*1当初目標(5年間累計)：約250億円 修正目標(5年間累計)：約260億円

\*22025年度までのライフサイエンス等の新規事業分野への設備投資・出資額（コーポレート）

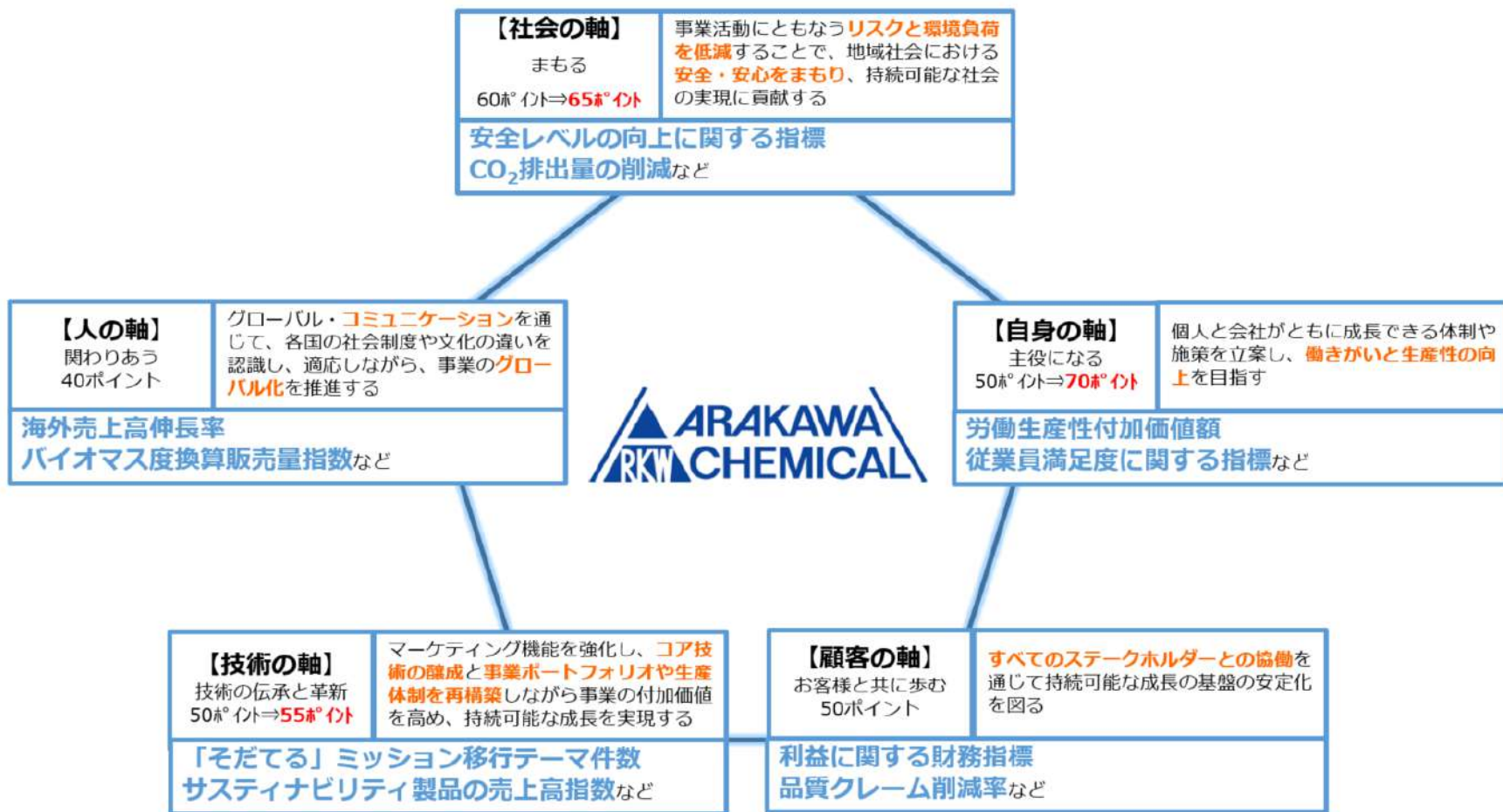
# 財務目標（連結・セグメント別）

（百万円）

		2021年度 実績	2022年度 実績	2023年度 実績	2024年度 予想	2025年度 当初目標	2025年度 修正目標
機能性 コーティング	売上高	16,226	15,700	14,931	17,400	20,000	20,000
	セグメント利益	1,082	335	520	1,200	2,100	1,600
製紙・環境	売上高	18,652	20,991	21,120	22,500	20,000	23,500
	セグメント利益	969	310	1,339	1,700	1,250	1,600
粘接着・ バイオマス	売上高	32,530	29,977	25,135	28,000	31,000	30,500
	セグメント利益	206	△3,871	△4,048	△2,000	2,100	400
ファイン・ エレクトロニクス	売上高	12,826	12,570	10,955	14,000	18,000	15,500
	セグメント利益	552	349	△393	850	1,800	700
その他	売上高	279	191	80	100	600	500
	セグメント利益	45	42	38	50	280	80
合計	売上高	80,515	79,431	72,222	82,000	90,000	90,000
	セグメント利益	2,855	△2,832	△2,542	1,800	7,550	4,380
	新規開発投資	△437	△406	△408	△400	△850	△750
	新規開発投資 差引後利益	2,418	△3,239	△2,950	1,400	6,700	3,630

# 5つのKIZUNA/KIZUNA指標

- 5つのKIZUNAとリンクした優先的な重要課題に対する指標を設定
- 達成度に応じてポイント付与（目標ポイントを目指し「ありたい姿」へ）





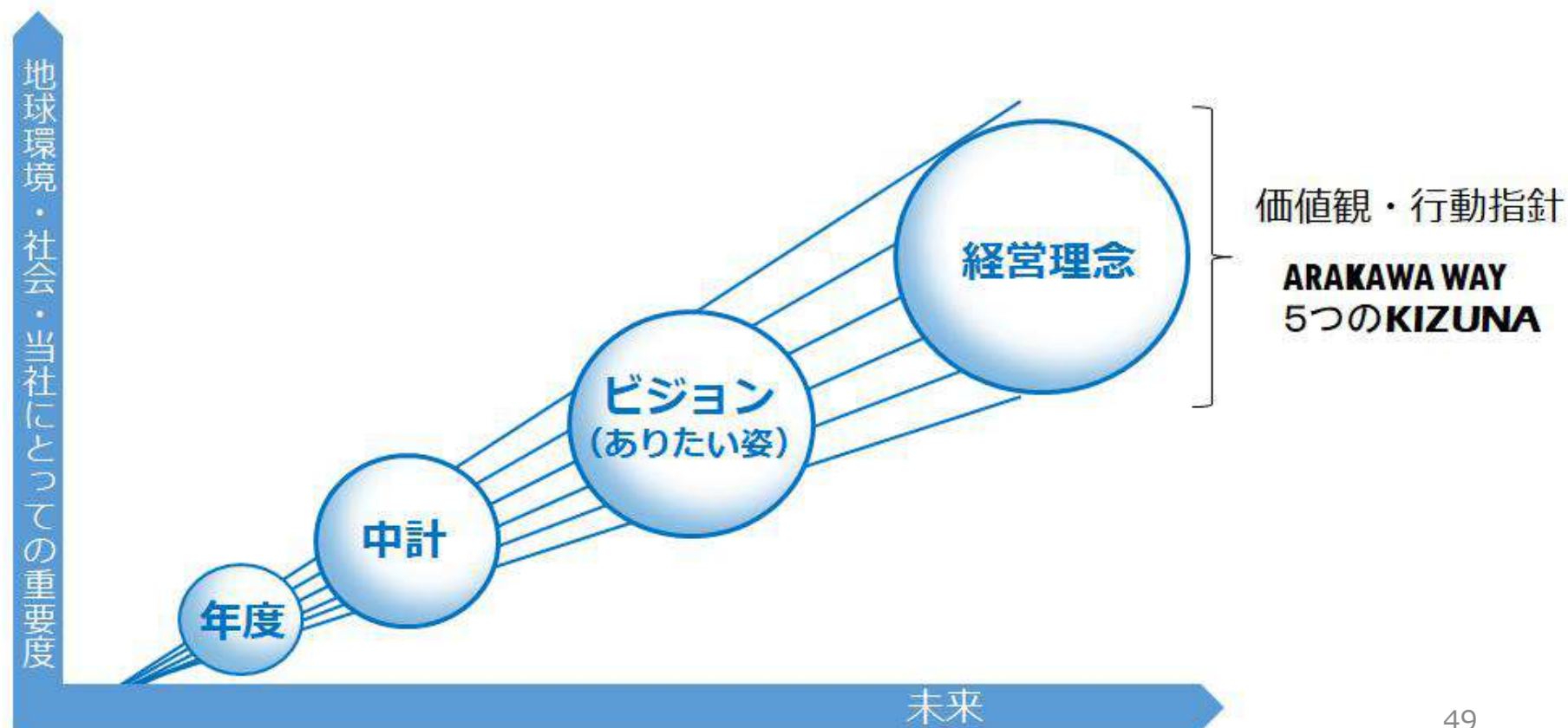
# 経営理念とビジョン

## 【経営理念】

個性を伸ばし 技術とサービスで みんなの夢を実現する

## 【ビジョン】

つなぐを化学する SPECIALITY CHEMICAL PARTNER

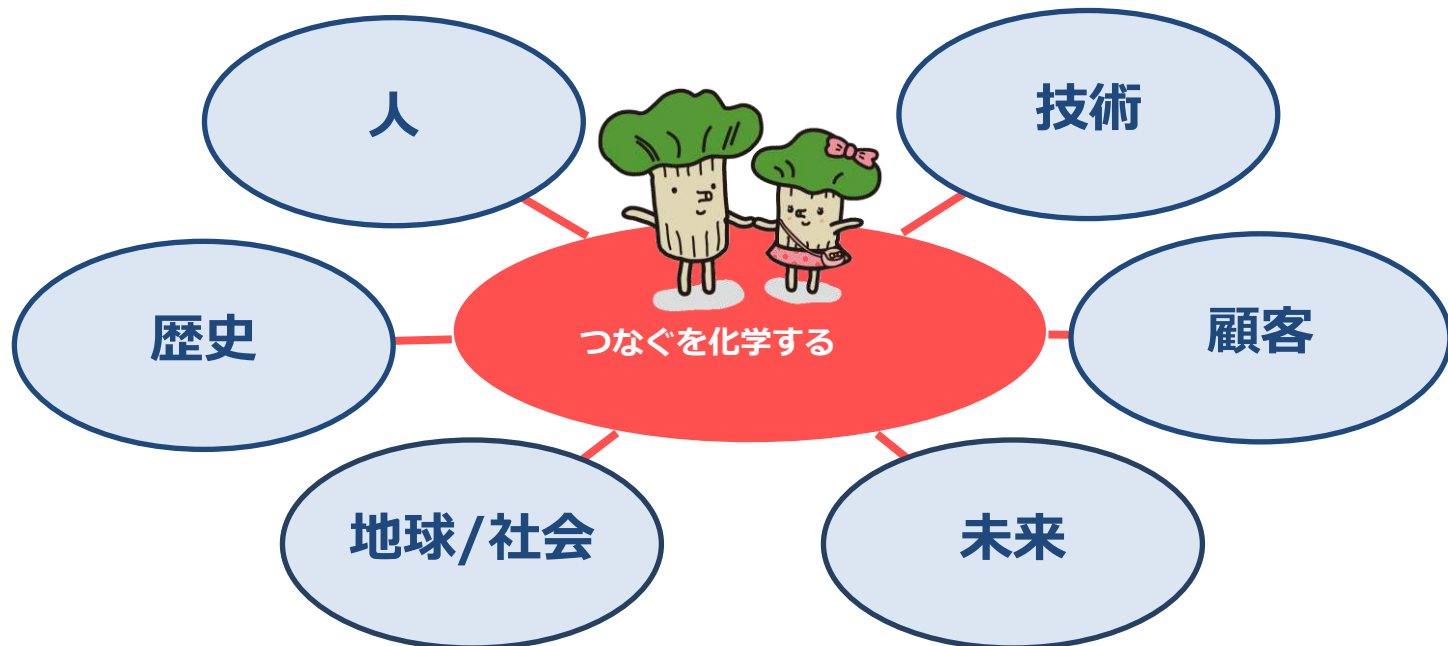


# 2030年のありたい姿

ロジンをはじめとする環境に配慮した素材を活かし、  
「つなぐ」技術の深化と新たな付加価値の創造に挑戦し続けることで、  
地球環境と社会の持続可能な未来に貢献する

## つなぐを化学する

SPECIALITY CHEMICAL PARTNER



# 荒川化学の未来像（ビジョンの具現化）

- 地球環境と社会の持続的な未来に貢献するエコシステムにしっかり入り込む
- ライフサイエンス関連などの素材・REALとDIGITALを下支えするケミカルパートナーへ変革

持続可能な地球環境と社会の実現

REAL

DIGITAL

ライフサイエンス

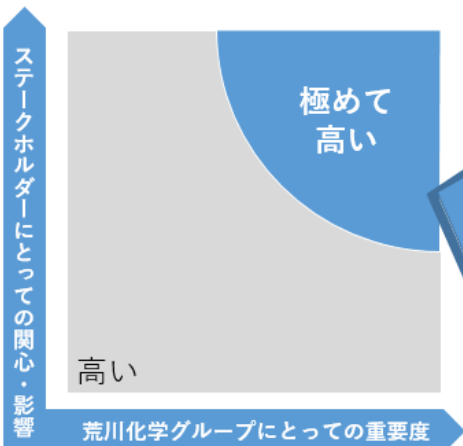
「ありたい姿」の実現

# 優先的な重要課題（マテリアリティ）と5つのKIZUNA

## ■ 優先的な重要課題として12項目を選定し、5つのKIZUNA\*との紐付け

\*荒川化学グループの価値観・行動指針「ARAKAWA WAY 5つのKIZUNA」

ESG	優先的な重要課題	5つのKIZUNA
E S	安全文化の醸成	【社会の軸】 まもる
E	環境保全の強化	
G	ガバナンスの強化	
G	事業のグローバル化推進	【人の軸】 関わりあう
S	ダイバーシティ&インクルージョン推進	【自身の軸】 主役になる
S	働きがい改革	
S	NEXT事業の創出	【技術の軸】 技術の伝承と革新
E S	マーケティング力・研究開発力の強化	
G	生産体制再構築	【顧客の軸】 お客様と共に歩む
G	健全な財務基盤	
E S	持続可能な調達と供給	
G	品質マネジメントの強化	



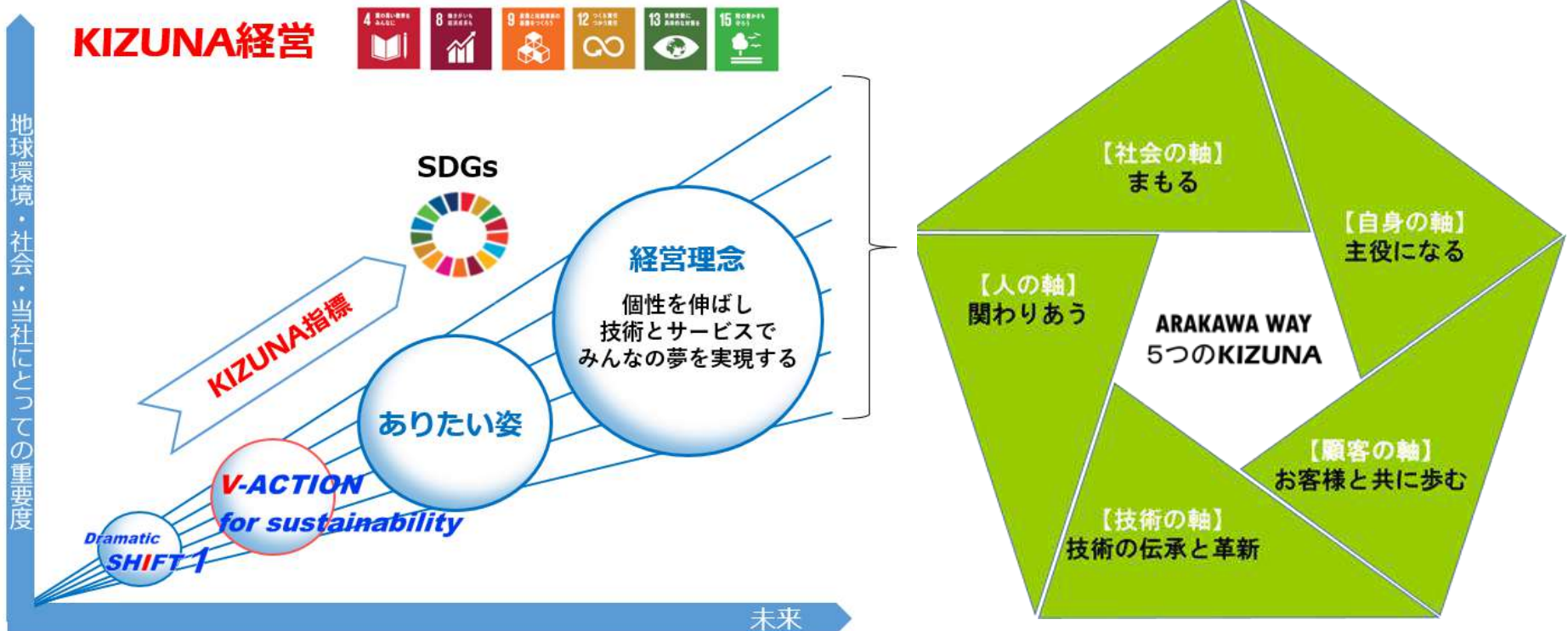
\*策定にあたってはSDG CompassやGRIスタンダードなどグローバルガイドラインを参照



# 基本方針

## KIZUNA経営の推進とKIZUNA指標の達成

KIZUNA指標：5つのKIZUNA とリンクした優先的な重要課題から設定した指標  
「ありたい姿」を実現するための指標



# KIZUNA経営



## ① サステナビリティ委員会 設置

- ・ 重要課題や関連目標の設定や見直し、進捗状況のモニタリング・評価
- ・ 事業ポートフォリオの見直しや中長期的な経営計画、方向性を決定

## ② KIZUNA推進室 設置

- ・ 個人と会社がともに成長できる体制や施策を立案
- ・ 5つのKIZUNA共有活動や働きがい改革などを通じて、企業風土の改革を目指す

## ③ 事業戦略部 設置

- ・ グローバル事業戦略の提案・推進・評価・見直し
- ・ 事業の付加価値を高め、持続可能な成長の実現を目指す

# KIZUNA指標の進捗

5つのKIZUNA	優先的な重要課題	KIZUNA指標	実績			目標*		ポイント	ポイント合計	目標修正
			2023年度	2025年度	2030年度	2025年度	2030年度			
【社会の輪】 まもる	安全文化の醸成	災害・事故ゼロ継続（死亡・休業災害等）および第三者機関による保安力評価、安全レベルの継続的向上	休業災害2件 保安力：業界平均以上	災害・事故ゼロ継続（死亡・休業災害等） 安全レベルの継続的向上（評価4） <sup>*12</sup>			25	65	→	
	環境保全の強化	C O <sub>2</sub> 排出量の削減	2015年度比53.0%削減	2015年度比50%削減 （2015年度比30%削減）*	2015年度比50%以上削減 <sup>*10</sup>	20	↗			
		マツタロウの森の植林活動およびC O <sub>2</sub> 吸収量評価実施	植林実施 吸収量8トン/年以上	2026年度までに約1万本の植林を実施 C O <sub>2</sub> 吸収量10トン/年以上 <sup>*11</sup>		5	→			
	ガバナンスの強化	サステナビリティ委員会の設置と運用	運用・中計見直し	持続可能な経営および企業価値向上に向けた取り組み実施 （KIZUNA指標の達成）		10	→			
重大な不正やコンプライアンス違反発生ゼロを継続		0件	0件継続		5	→				
【人の輪】 開わりあう	事業のグローバル化推進	海外駐在員の邦人指数 <sup>*1</sup>	25%ダウン	2019年度比15%ダウン	2019年度比30%ダウン	10	40	→		
		海外売上高伸長率	13%アップ	2019年度比40%アップ	2025年度に再設定	15		↘		
		バイオマス産換路販売量指数 <sup>*2</sup>	31%ダウン	2019年度比7%アップ	2019年度比15%アップ	15		→		
【自身の輪】 主役になる	ダイバーシティ& インクルージョン推進  働きがい改革	付加価値労働生産性 <sup>*3</sup>	5.9%アップ	2019年度比15%アップ	2025年度に再設定	15	70	↘		
		従業員満足度調査（働きがいアンケート）	イキイキタイプ 50.3%	イキイキタイプ 50%以上	イキイキタイプ 60%以上	10		→		
		高ストレス者比率 （製造業平均比） （参考）2022年度製造業平均15.0%	8.5% (57%)	製造業平均比 50%以下	製造業平均比 50%以下維持	10		指標変更 <sup>*9</sup>		
		社会貢献活動の実施 <sup>*4</sup>	実施/新規活動あり	地域清掃や献血などの継続と新たな貢献活動の実施		5		→		
		育児休業取得率	66.7%	男性育児取得率50%以上維持	2025年度に再設定	10		↗		
		女性管理職人数	6名増/3年	2021~2025年で7名増	2025年度に再設定	10		→		
		ミッションをSHIFTした数	11件/3年	8件以上/5年	10件以上/5年	10		→		
		NE X T事業の創出	「そでてる」ミッションへの移行テーマ件数	1件/3年	5件/5年	5件/5年、1事業化 <sup>*7</sup>		20	→	
【技術の輪】 技術の伝承と革新	マーケティング力・ 研究開発力の強化	サステナビリティ製品の連結売上高指数 <sup>*5</sup>	11%アップ	2019年度比30%以上アップ （2019年度比25%以上アップ）*		20	55	↗		
	生産体制再構築	モノ、ヒト、機器など各種施策の実施	一部製品の 製造拠点の統合会	品種統合、OEM、IoTの導入など各種施策の実施	15	→				
	健全な財務基盤	営業利益率	△3.6%	3.9%以上	10%以上	10		↘		
【顧客の輪】 お客様と共に歩む	持続可能な調達と供給	ROE	△1.9%	3.6%以上	8%以上	10	↘			
		持続可能な調達率（金額ベース） <sup>*6</sup>	68.8%	70%	70%以上維持	10	→			
		調達先監査件数	26件	50件	50件以上維持	10	→			
		品質マネジメントの強化	品質クレーム件数削減率	22%削減	2019年度比50%削減	発生率最小化に向けた 強化施策の推進	10	→		

\*1 2019年度の海外関係会社あたりの平均邦人人数を100としたときの指数。\*2 粘着剤・バイオマス事業の主要製品のバイオマス産換路販売量を当社基準に基づき指数化。\*3 当社基準の付加価値額を設定して算出。目標値は算定時点での身なしの労働時間、従業員人数を除いて算出。\*4 新たな取り組みを実施した年度は5ポイント加算する。\*5 従来の環境配慮型製品の売上高の対称範囲・基準を超過し、サステナビリティに貢献している製品として当社内で設定した製品の連結売上高で、2019年度を100として算出。\*6 非口ジンス系原料（石油系原料）を対象とし原料精製を踏まえた当社基準で算出。\*7 第5次中計中に「そでてる」ミッションへ変更し、売上高10億円以上または事業利益1億円以上を達成した新規事業。\*8 目標値は見直し可能性がある。\*9 旧指標である「過去3年のメンタルヘルスによる休業者の復職率」については、当社として対応できる環境整備が進められたため新たな指標に変更し、これまでの連携ポイントには引き継ぐ。製造業平均比についてはストレスチェックの委託先における該当年度の製造業平均値を100として算出。ただし、2023年度の業界平均値は本レポート作成時点で未公表のため、14%と見なして算出。\*10 現時点では日本国内グループ（千葉アルコル・製造物を含みます）を対象としているが、対称範囲の拡大や削減率については次期中計で改めて検討予定。\*11 2023年度より認定の対象が前年度に開業した範囲に改訂されたため、過年度分は算定式に基づき推定取引量を加算してカウント。\*12 評価4は一部の連続プラントの目標であり、大多数を占めるバッチプラントでは評価3.8を目標としている。

※資料は2021年12月23日（プライム市場を代表表明時）に追加した指標。赤枠の（ ）内の目標値はサステナビリティ・リンク・ボンドの売り組み目標（SPTs：サステナビリティ・パフォーマンス・ターゲット）を示す（発行時点の目標）。

# 事業ポートフォリオ改革①

## ■コア技術・素材

荒川化学グループが提供できる価値に対して、**長期的に経営資源を投入し、事業ポートフォリオの中核とする**

コア技術・素材	強み	方向性
水系ポリマー	重合技術	より一層環境に配慮した製品の開発 コア技術を活用した機能性材料としての新規用途展開
フォレストケミカル	原料調達 ロジン基礎技術 ロジン変性技術	持続可能な再生原料の有効活用 資源確保、高機能化 高付加価値用途への展開
水素添加	高圧水添技術・ 設備	グローバルでのブランド力の維持・強化 高圧水添技術の伝承と活用・展開 ブラッシュアップ
機能性材料*	スペシャリティ カスタマイズ	業界情報の集約 市場変化スピードへの対応、新規テーマ獲得 品質、生産設備の強化

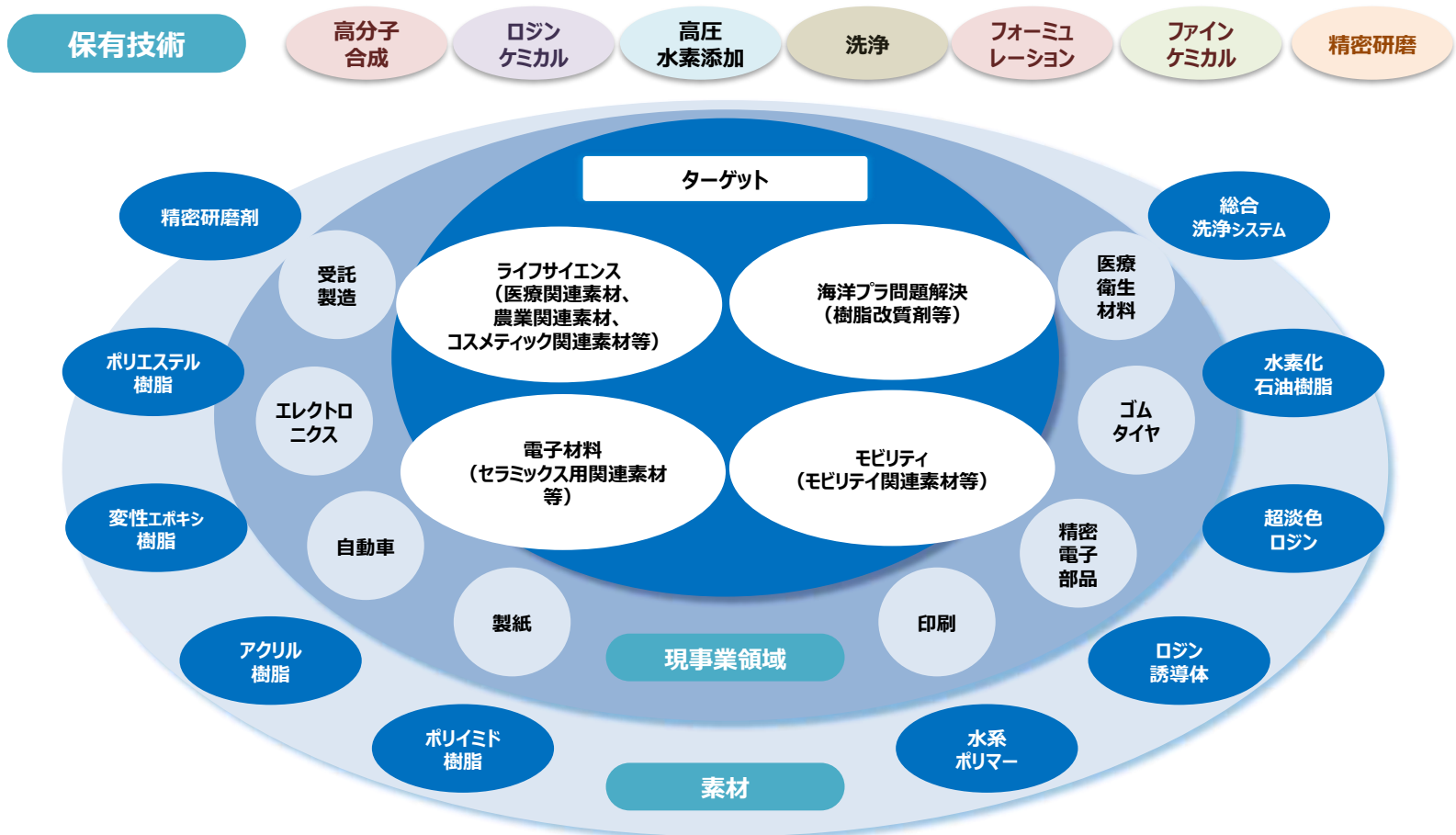
\* 機能性コーティング剤（光硬化型/熱硬化型樹脂）、低誘電ポリイミド樹脂、ファインケミカル、電子材料配合製品、精密研磨剤など



# 事業ポートフォリオ改革②

## ■ 現事業領域・素材と今後のターゲット分野

現事業領域に加え、**新たな事業領域での事業創出**に挑戦



# 事業ポートフォリオ改革③

- 新規事業創出の仕組みを確立し、ターゲット分野への参入に挑戦
- AI・MI活用による研究開発活動の効率化を推進

## 新規分野での実績化

ライフサイエンス  
医療関連素材、農業関連素材  
コスメティック関連素材など

海洋プラスチック  
問題解決関連素材

セラミックス用  
関連素材

モビリティ  
関連素材

など

- ・ マーケティング機能の強化
- ・ 社内テーマ提案・チャレンジャー育成の推進
- ・ 外部ソースの有効活用

みつける



そだてる	のばす
やめる/わたす /すてる	かせぐ

成長性

収益性

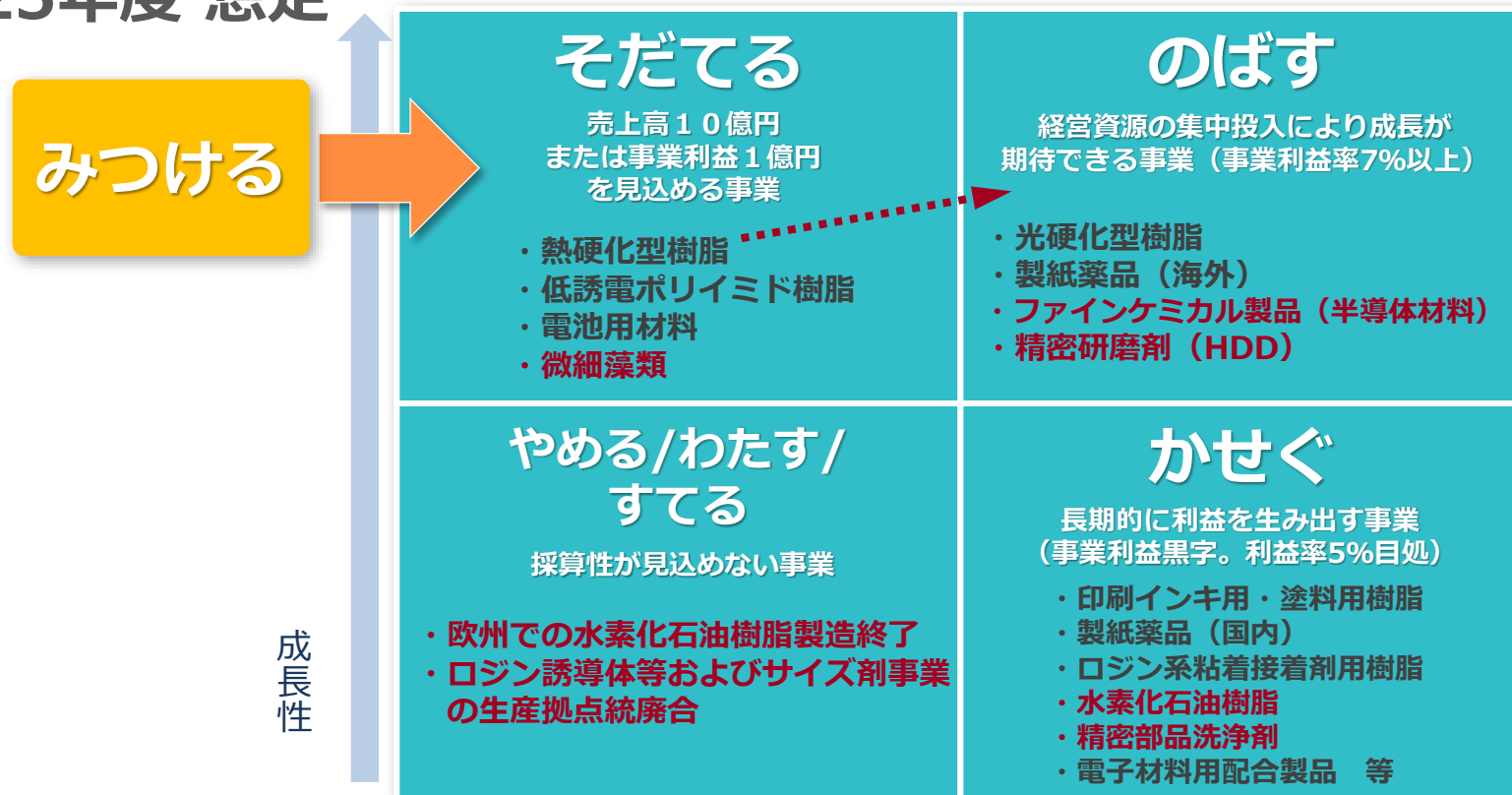


# 事業ポートフォリオ改革④

## ■プロダクト・ポートフォリオ・マネジメント

「やめる/わたす/すてる」への**SHIFT**もおこない、**事業の新陳代謝を推進**

2025年度 想定



収益性

# セグメント組み換え (2021年度より)

## 旧セグメント

### 製紙薬品事業

サイズ剤

紙力増強剤

### コーティング事業

機能性コーティング剤

印刷インキ・塗料用樹脂

合成ゴム重合用乳化剤

### 粘接着事業

水素化石油樹脂

粘着・接着剤用樹脂 など

シリコン樹脂

### 機能性材料事業

精密部品洗浄剤 など

低誘電ポリイミド樹脂

ファインケミカル

電子材料用配合製品

精密研磨剤

印は、主に  
ロジン系製品

印は、主に  
超淡色ロジン  
系製品

## 新セグメント

### 機能性コーティング事業

機能性コーティング剤

印刷インキ・塗料用樹脂

シリコン樹脂

### 製紙・環境事業

紙力増強剤

サイズ剤

### 粘接着・バイオマス事業

水素化石油樹脂

粘着・接着剤用樹脂 など

合成ゴム重合用乳化剤

### ファイン・エレクトロニクス事業

精密部品洗浄剤 など

低誘電ポリイミド樹脂

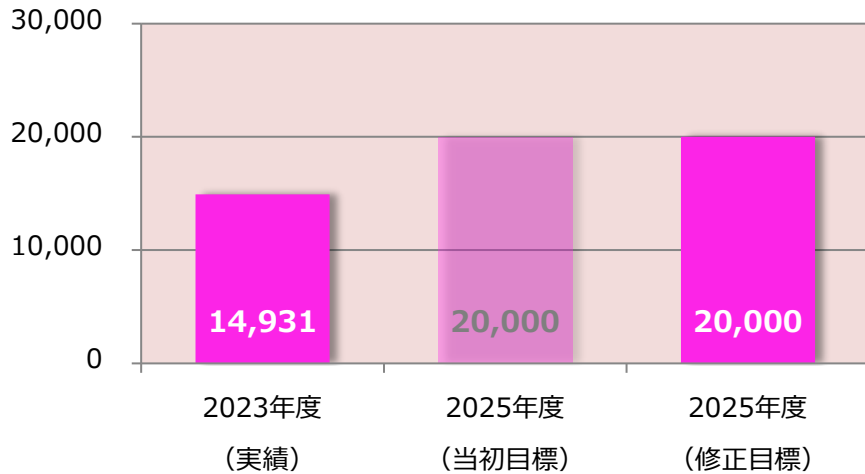
ファインケミカル

電子材料用配合製品

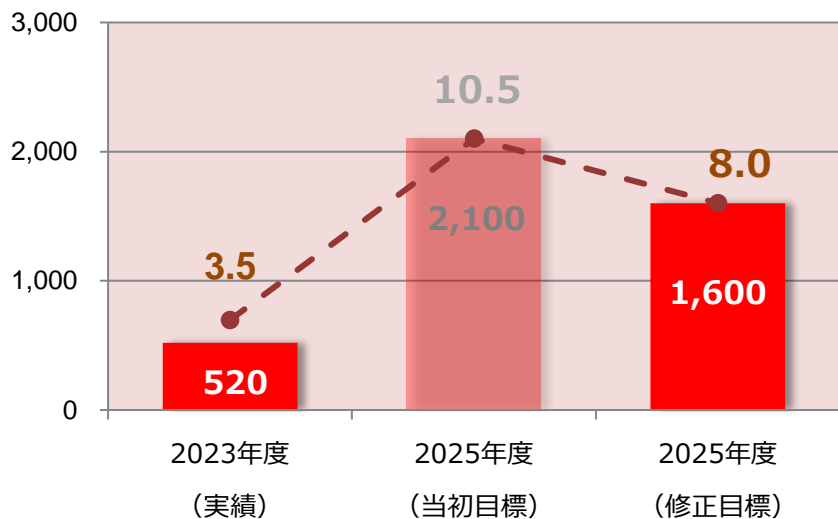
精密研磨剤

# 機能性コーティング事業

■ 売上高 (百万円)



■ セグメント利益    ● セグメント利益率



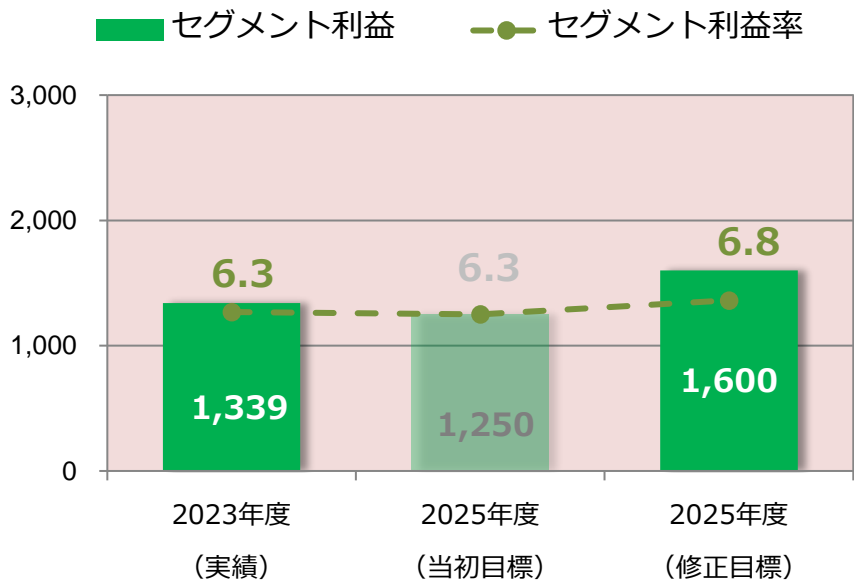
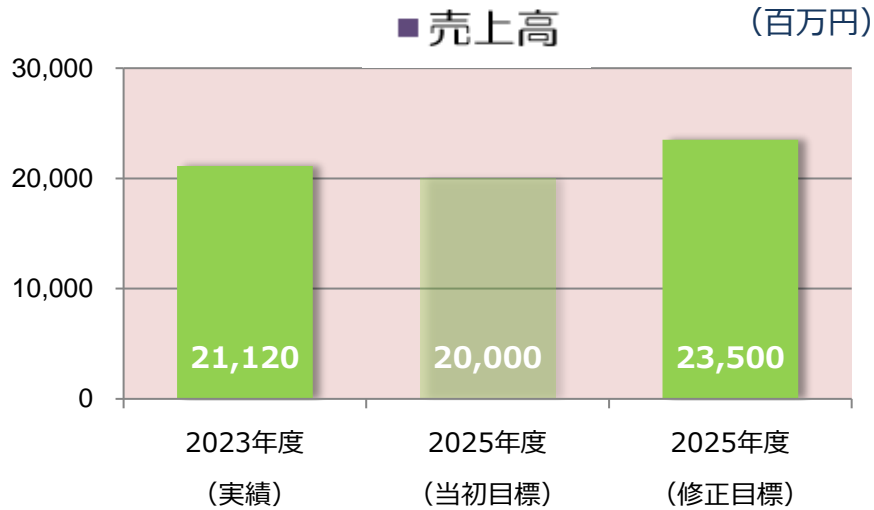
## 施策

- ・ 強固な事業基盤構築による拡大
- ・ 採算性の向上
- ・ コア技術を活かした新規テーマの創出

## 進捗と見通

- ・ 光硬化型樹脂 (ビームセット)  
2024年2月に富士工場に新プラント完成  
⇒電子部品の工程部材を中心とした将来的な需要増加に対応
- ・ 熱硬化型樹脂 (アラコート) の「のぼす」  
ミッションへの**SHIFT**推進に向けた  
テーマの選択と集中も実績化遅れ
- ・ 印刷インキ用樹脂  
市場縮小加速も採算性改善

# 製紙・環境事業



## 施策

- ・ 海外事業の拡大戦略の加速
- ・ 採算性の向上を強力推進
- ・ コア技術を活かした新規テーマの創出

## 進捗と見通

- ・ 荒川ケミカルベトナムの稼働により業績に寄与、中国景気が下振れのなか南通荒川など海外事業の拡大戦略の加速  
(国内事業の低迷をカバー)
- ・ 採算性の向上を強力推進
- ・ 製造拠点の統廃合
- ・ 脱プラの国内外ニーズへの対応  
⇒ 食品包装などの紙素材向けコーティング剤 (フッ素代替) 市場開拓

# 粘接着・バイオマス事業

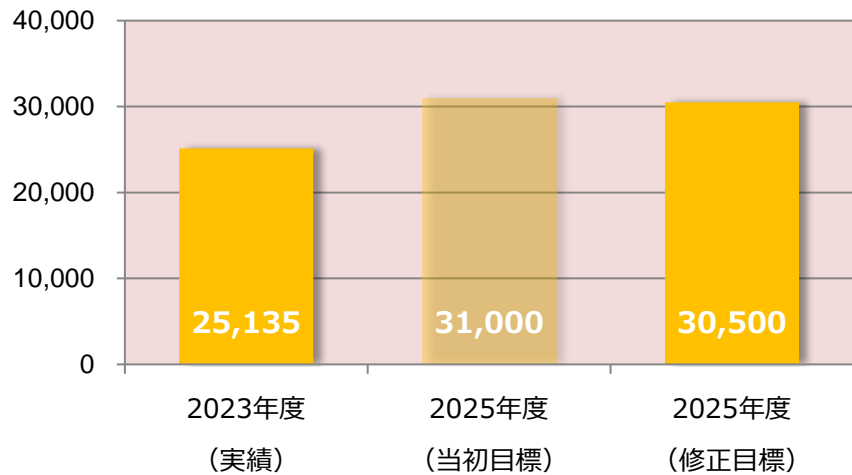
## 施策

- 水素化石油樹脂「アルコン」  
グローバルサプライヤーブランドカの維持・強化
- 「ロジンの荒川」⇒  
「Global Pine Chemicals Partner」への深化
- 松脂資源と関連事業の持続性を確保

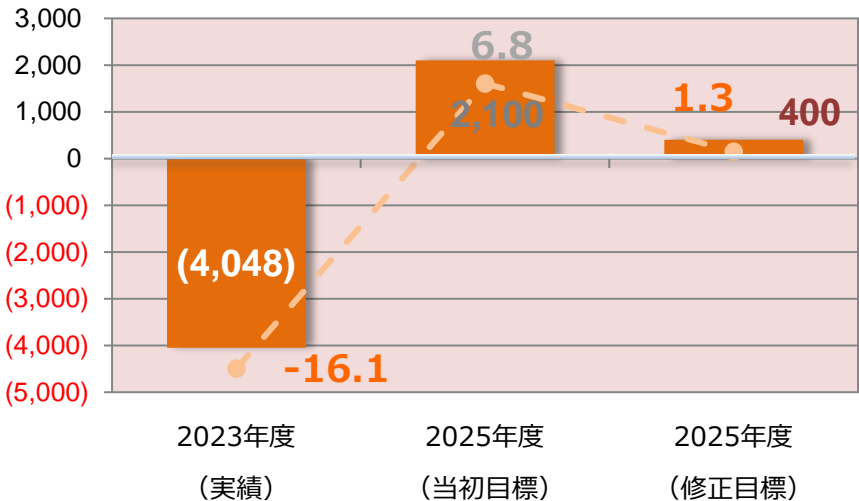
## 進捗と見通

- 水素化石油樹脂（アルコン）  
荒川ヨーロッパ社における製造終了  
⇒ 水島工場と千葉アルコン製造2拠点体制  
アルコンの安定供給と収益性の向上を目指す
- ロジン誘導体等事業  
製造拠点の統廃合、採算性の向上  
バイオマス素材としての価値を再訴求

■ 売上高 (百万円)

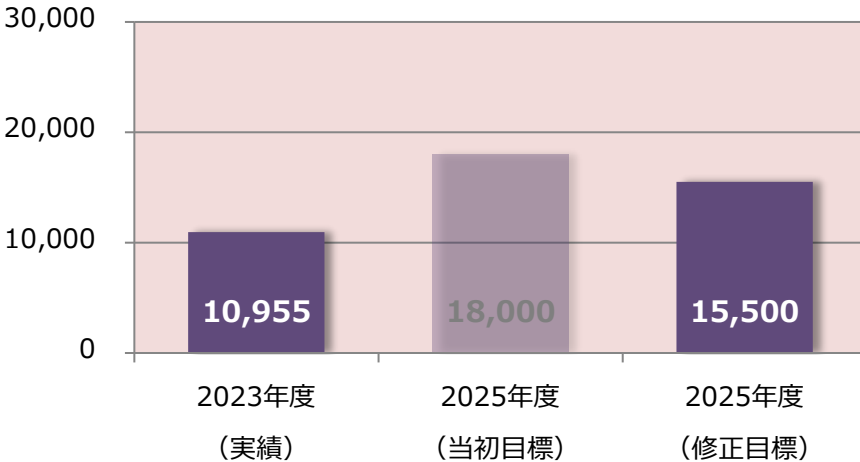


■ セグメント利益    ● セグメント利益率



# ファイナ・エレクトロニクス事業

■ 売上高 (百万円)



## 施策

- ・ 通信高速大容量化、自動車電動化を  
メインターゲット  
⇒市場ニーズに合わせて素早く連携できる  
仕組みを確立、事業のさらなる拡大

## 進捗と見通

### ■ ファインケミカル製品

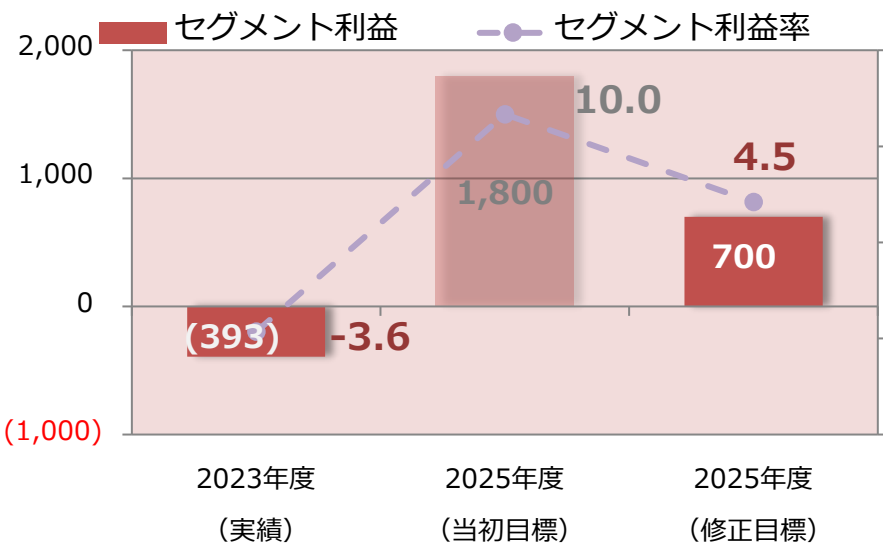
- 半導体関連材料の将来的な需要増加に対応  
⇒水島工場に新たなプラントを建設中  
高圧化学工業との2拠点体制を構築

### ■ HDD用精密研磨剤 (Neopolish)

- データセンター市場の拡大に対応  
⇒2023年11月山口精研第2工場建設、稼働を開始

### ■ 低誘電ポリイミド樹脂 (PIAD) / 電池用材料

「のぼす」ミッションへの**SHIFT**推進遅れ

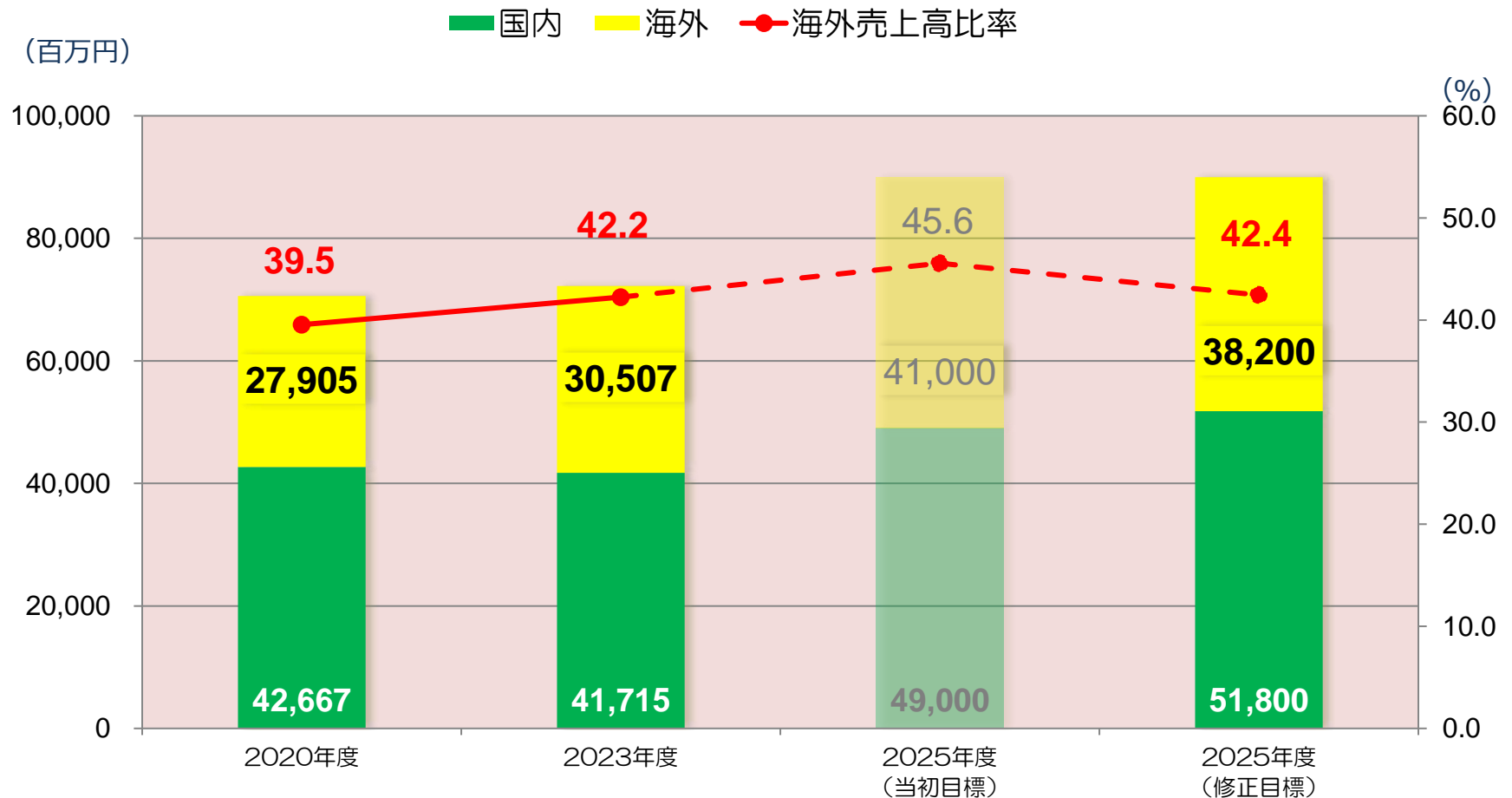




# 海外売上高伸長率

さらなるグローバル化を引き続き推進し、

2020年度比海外売上高伸長率35%以上を目指す



# サステナビリティ・リンク・ボンド（SLB）の発行

## 日本の化学業界では**初**(世界の化学業界7例目、国内10例目)となるSLB発行



社債の名称	荒川化学工業株式会社第5回無担保社債（社債間限定同順位特約付） （サステナビリティ・リンク・ボンド） （別称：荒川化学 マツタロウ サステナビリティ・リンク・ボンド）
年限・発行額 （各社債の金額）	5年・50億円 （1億円）
利率 （条件決定日）	年0.180% （2021年11月19日）
取得格付	A - （株式会社日本格付研究所）
引受会社	みずほ証券株式会社（事務主幹事、Structuring Agent）、野村証券株式会社、 三菱UFJモルガン・スタンレー証券株式会社
SPTs	<b>SPT 1：2025年度のCO<sub>2</sub>排出量を2015年度比30%削減(Scope1+2)</b> <b>SPT 2：2025年度のサステナビリティ製品*の連結売上高指数を2019年度比25%以上アップ</b>
未達成の場合 （2025年度末時点）	<ul style="list-style-type: none"> <li>・片方未達の場合、下記の寄付先へ、2026～2030年度の各年度で寄付を実施（社債発行額の0.30%）             <ol style="list-style-type: none"> <li>①CO<sub>2</sub>吸収に効果のある松の植林や苗などを植える法人・団体等（SPT1のみ未達の場合）</li> <li>②将来を担う学生や子どもたちへの教育の提供や関連する法人・団体等（SPT2のみ未達の場合）</li> </ol> </li> <li>・いずれも未達の場合             <ol style="list-style-type: none"> <li>①および②にそれぞれ社債発行額の0.15%相当額（合計で社債発行額の0.30%相当額）の寄付を実施</li> </ol> </li> <li>・SPTs未達の場合の寄付の実施状況ならびにSPTsの進捗状況については、ウェブサイト上に公表</li> </ul>
SLBの 適合性について	株式会社日本格付研究所（JCR）より、ICMAが策定したサステナビリティ・リンク・ボンド原則（SLBP）および環境省が策定したグリーンローンおよびサステナビリティ・リンク・ローンガイドラインに適合している旨の第三者意見書を取得

第5次中計のKIZUNA指標のうちサステナビリティ経営における**リスクと機会**に対する重要な指標

\*社会インフラ課題貢献、環境負荷低減、天然資源活用といったサステナビリティに貢献している製品として当社内で認定した製品

# SLBスキームイメージ

当社のマテリアリティに対応する取り組みとKIZUNA指標(KPI)からリスクと機会に対して重要な以下の2つを選定

KPI 1 CO<sub>2</sub>排出量の削減(Scope 1、2)

KPI 2 サステナビリティ製品の連結売上高指数

## サステナビリティ・リンク・ボンドにおける発行条件と連動するSPTs

SPT 1

2025年度のCO<sub>2</sub>排出量を2015年度比30%削減

SPT 2

2025年度のサステナビリティ製品の連結売上高指数を2019年度比25%以上アップ

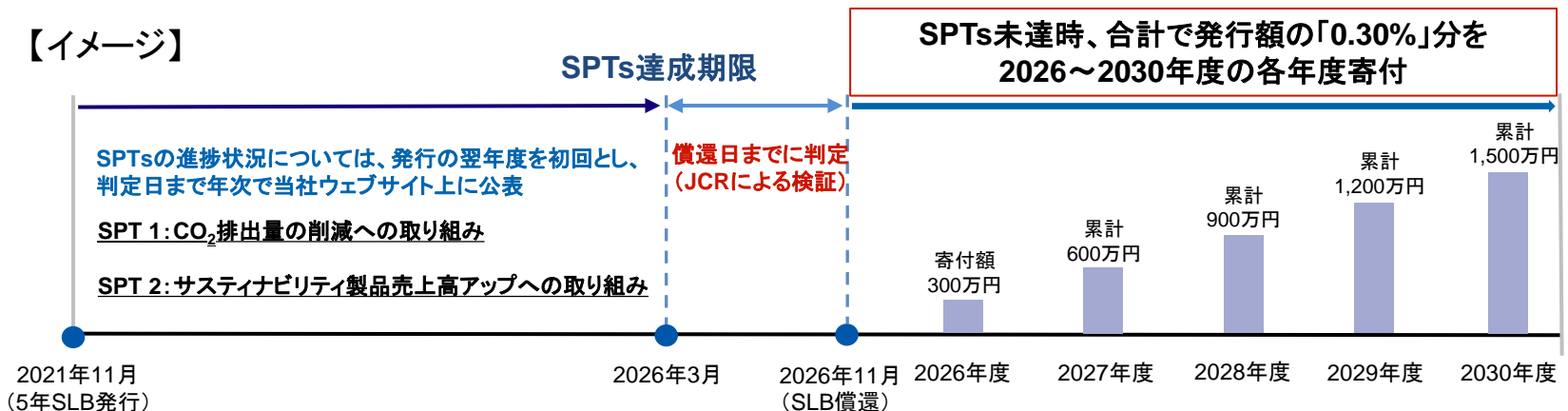
※KPI(キー・パフォーマンス・インディケーター) : 非財務情報に関する重要情報評価指標

※SPTs(サステナビリティ・パフォーマンス・ターゲット) : サステナビリティ・リンク・ボンドの発行条件を決定する発行体の経営戦略に基づく目標

### SPTs未達時

判定日において、SPTsの目標が達成できない場合、2026~2030年度の各年度寄付を実施。  
合計で社債発行額の0.30%相当額の寄付をする。

### 【イメージ】



# サステナビリティ・リンク・ボンド SPT1の進捗について

2025年度のCO2排出量を2015年度比30%削減

## CO2排出量の推移

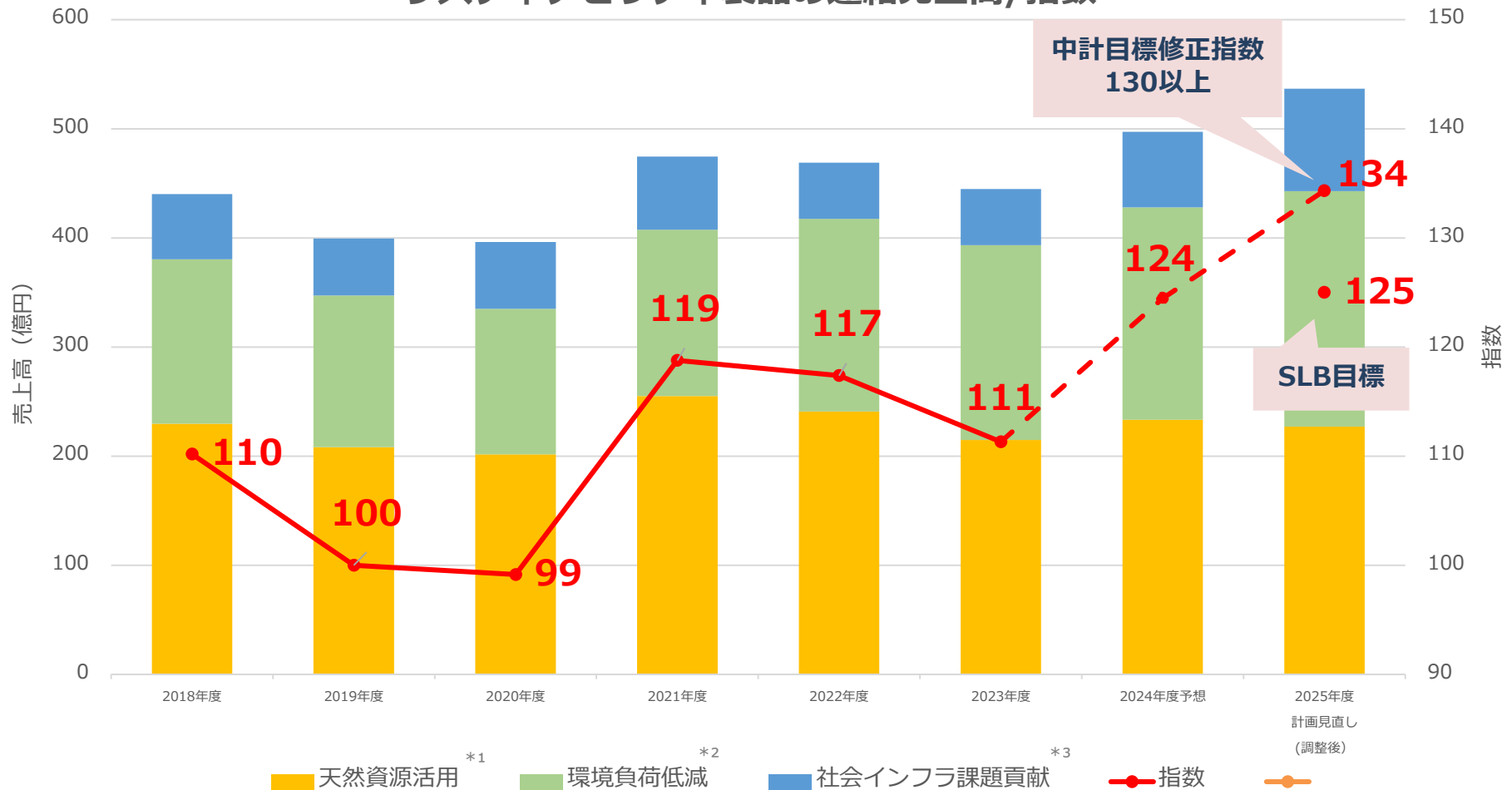
- SPT1の算定範囲として定めた単体および国内の主要なグループ会社(ペルノックス、高圧化学工業、山口精研工業)におけるCO<sub>2</sub>排出量の合計推移
- 2021年から2025年の5年間で継続的な投資を予定
  - EMS(環境マネジメントシステム)、省エネ活動(LED照明や効率化など)
  - 大規模投資省エネ(太陽光発電設置など)
  - 再エネ電気やカーボンオフセット都市ガスの購入など



# サステナビリティ・リンク・ボンド SPT2の進捗について

2025年度のサステナビリティ製品の連結売上高指数を2019年度比25%以上アップ





## サステナビリティ製品の連結売上高/指数



\*1 循環型素材であるロジン系樹脂の新たな用途開発により維持・拡大に努める    \*2 カーボンニュートラルな社会の構築に資する製品への需要拡大を捕捉  
\*3 社会的課題解決 (EV車、Society 5.0 を見据えた通信インフラの拡大) に資する製品の需要拡大への対応

# サステナビリティ製品のSDGsへの貢献

## サステナビリティ製品と関連する主なSDGsおよび169のターゲット

SDGs目標	169のターゲットの主な項目
 <p>8 働きがいも経済成長も</p>	<p>8.8 移住労働者、特に女性の移住労働者や不安定な雇用状態にある労働者など、全ての労働者の権利を保護し、 <b>安全・安心な労働環境を促進する。</b></p>
 <p>9 産業と技術革新の基盤をつくろう</p>	<p>9.4 2030年までに、<b>資源利用効率の向上とクリーン技術及び環境に配慮した技術・産業プロセスの導入拡大を通じた</b>インフラ改良や産業改善により、持続可能性を向上させる。全ての国々は各国の能力に応じた取組を行う。</p>
 <p>12 つくる責任 つかう責任</p>	<p>12.2 2030年までに<b>天然資源の持続可能な管理及び効率的な利用</b>を達成する。 12.4 2020年までに、合意された国際的な枠組みに従い、<b>製品ライフサイクルを通じ、環境上適正な化学物質や全ての廃棄物の管理を実現し、人の健康や環境への悪影響を最小化するため、化学物質や廃棄物の大気、水、土壌への放出を大幅に削減</b>する。 12.5 2030年までに、<b>廃棄物の発生防止、削減、再生利用及び再利用により、廃棄物の発生を大幅に削減</b>する。</p>
 <p>13 気候変動に具体的な対策を</p>	<p>13.3 <b>気候変動の緩和、適応、影響軽減</b>及び早期警戒に関する教育、啓発、人的能力及び制度機能を改善する。</p>

メインの観点

# サステナビリティ製品一覧と指標への影響度

カテゴリー	製品	影響度*4	野心度*5
<b>社会インフラ課題貢献*1</b>   	光硬化型樹脂	中	↗
	低誘電ポリイミド樹脂	小	↗
	電池用材料	小	↗
<b>環境負荷低減*2</b>   	紙力増強剤	大	↗
	湿潤紙力増強剤	小	↗
	水系インキ・塗料用樹脂	小	↗
	剥離紙用コーティング剤	小	↗
	精密部品洗浄剤	小	↗
<b>天然資源活用*3</b>  	ロジン誘導体	中	↗
	超淡色ロジン	中	↗
	水系粘着・接着剤用樹脂	中	↗
	サイズ剤	中	↘
	ロジン系印刷インキ用樹脂	中	↘
	合成ゴム重合用乳化剤	中	→

\*1 5Gなど情報通信速度・量の質的改善、EV普及への貢献 \*2 古紙リサイクルの普及促進などバリューチェーンを通じた環境配慮（労働環境改善・大気汚染の防止を含む）への貢献  
 \*3天然資源活用による炭素循環社会への貢献 \*4 サステナビリティ製品の売上高に占める割合、\*5 2019年度比2025年度売上高増への貢献度

# 財務情報・その他



# 財務トピックス

## ポイント①：自己資本比率の回復

- ・ 自己資本比率は47.9%と一定の財務バランスが保たれている

## ポイント②：キャッシュフロー創出力の回復

- ・ 営業キャッシュフローがプラスに転じている

## ポイント③：成長投資のピークアウト

- ・ 営業キャッシュフローの範囲内で投資を実施

※25/3月期末には財務改善に転じると予想される。現状の自己資本規模からみて財務リスクが大幅に高まる懸念は小さい。  
参考：日本格付け研究所（JCR） 信用格付結果（2024年11月20日）

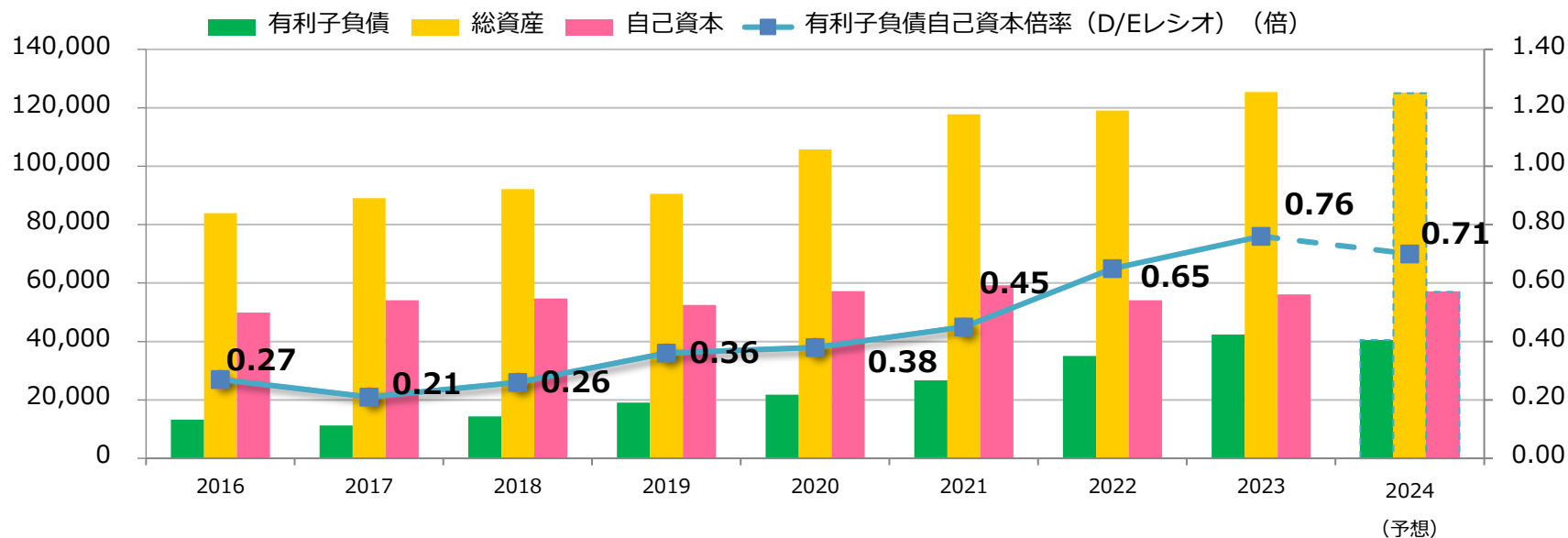
# 総資産・有利子負債推移

(百万円)

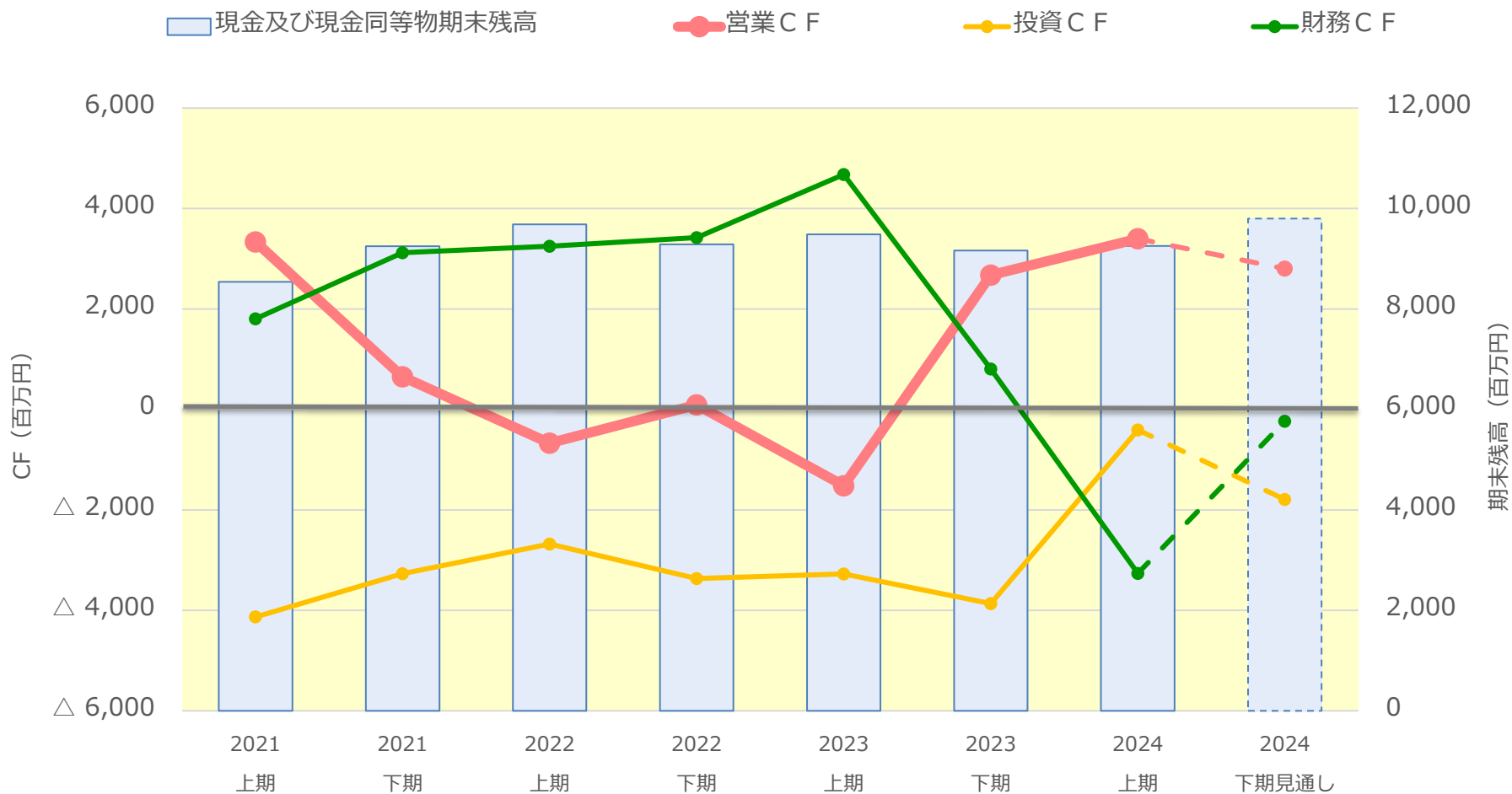
年度	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022	2023	2024 (予想)
有利子負債	13,300	11,269	14,349	19,045	21,789	26,680	35,052	42,388	40,500
総資産	83,898	89,019	92,174	90,600	105,757	117,739	119,035	125,418	125,000
自己資本	49,915	54,123	54,747	52,546	57,228	59,184	54,082	56,134	57,000
自己資本比率 (%)	59.5	60.8	59.4	58.0	54.1	50.3	45.4	44.8	45.6
有利子負債自己資本倍率 (D/Eレシオ) (倍)	0.27	0.21	0.26	0.36	0.38	0.45	0.65	0.76	0.71

\* 「『税効果会計に係る会計基準』の一部改正」（企業会計基準第28号 2018年2月16日）を2018年度の期首から適用しており、2017年度に係る主要な経営指標等については、当該会計基準等を遡って適用した後の指標等となっております。

(百万円)



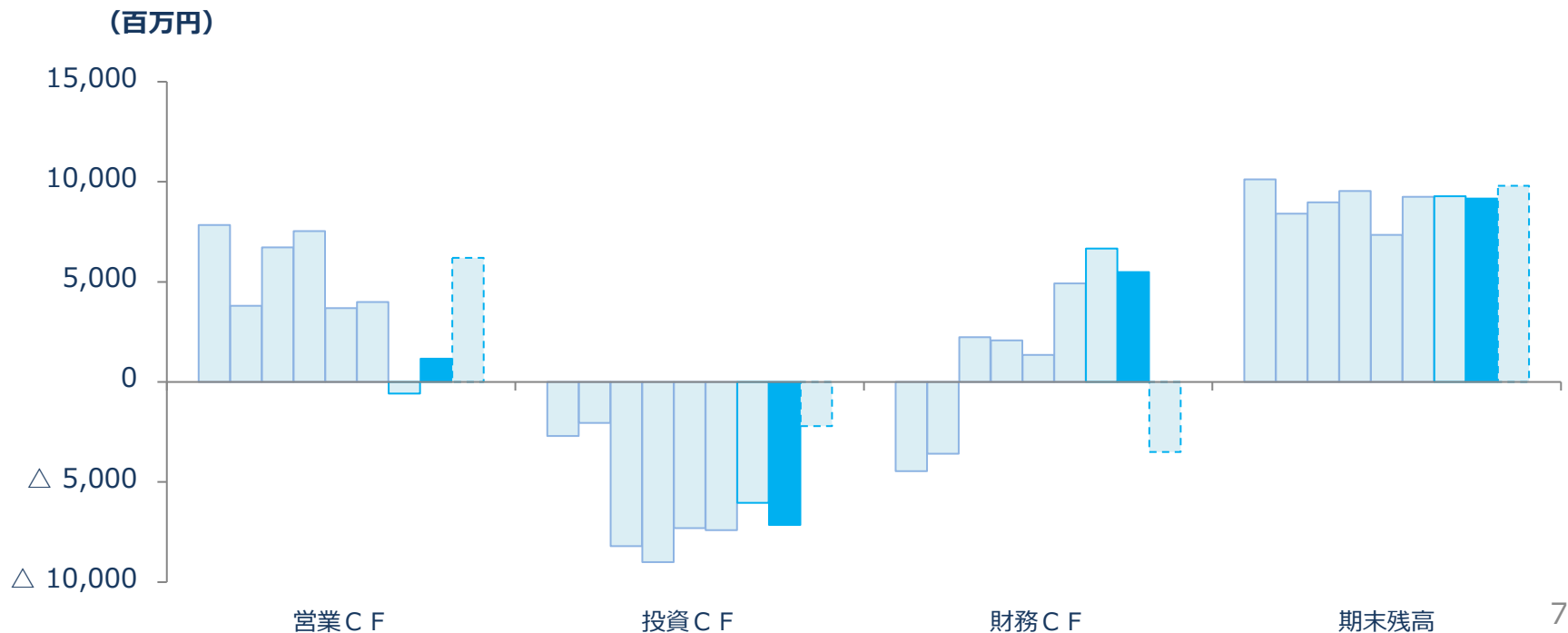
# キャッシュフロー推移（上下期）



# キャッシュフロー推移

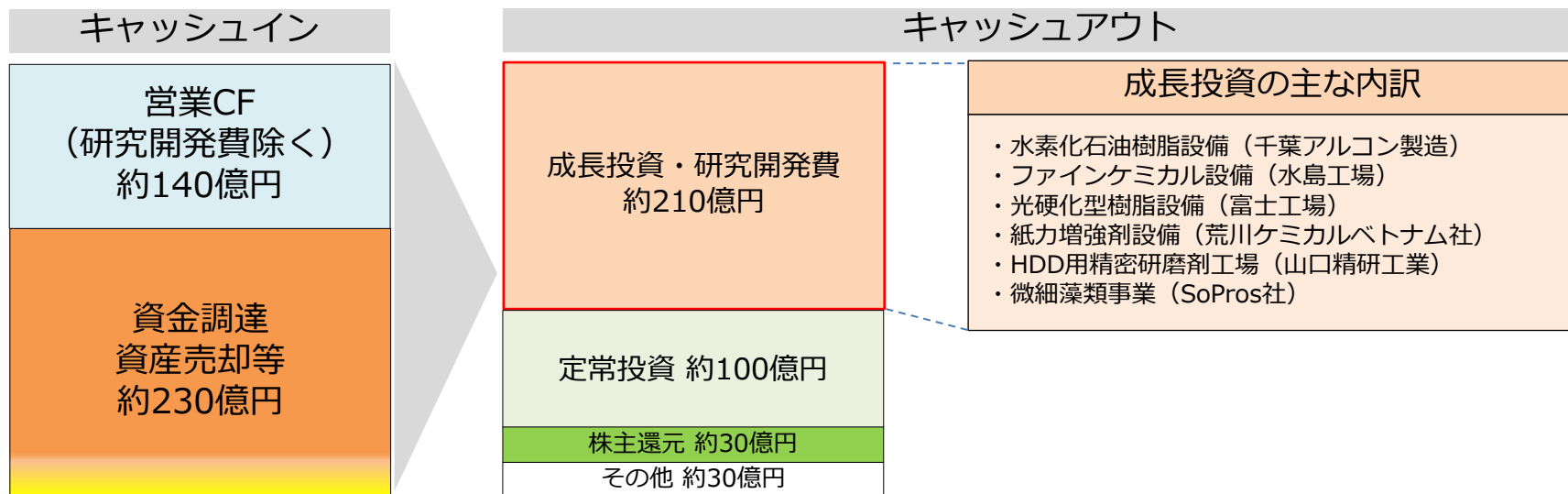
(百万円)

年度	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022	2023	2024 (予想)
営業C F	7,843	3,808	6,728	7,534	3,685	3,989	△ 575	1,157	6,200
投資C F	△ 2,698	△ 2,048	△ 8,208	△ 9,001	△ 7,298	△ 7,401	△ 6,046	△ 7,140	△ 2,200
財務C F	△ 4,452	△ 3,586	2,243	2,084	1,354	4,927	6,666	5,484	△ 3,500
期末残高	10,118	8,404	8,970	9,545	7,342	9,250	9,286	9,164	9,800

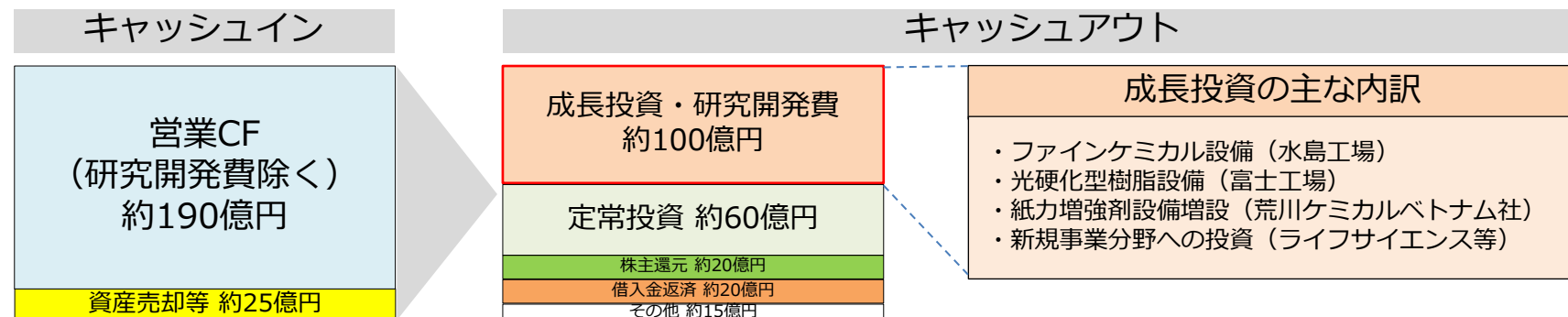


# 第5次中計期間における当社のキャッシュ・アロケーション

## 2021-2023年度 3カ年累計（実績）

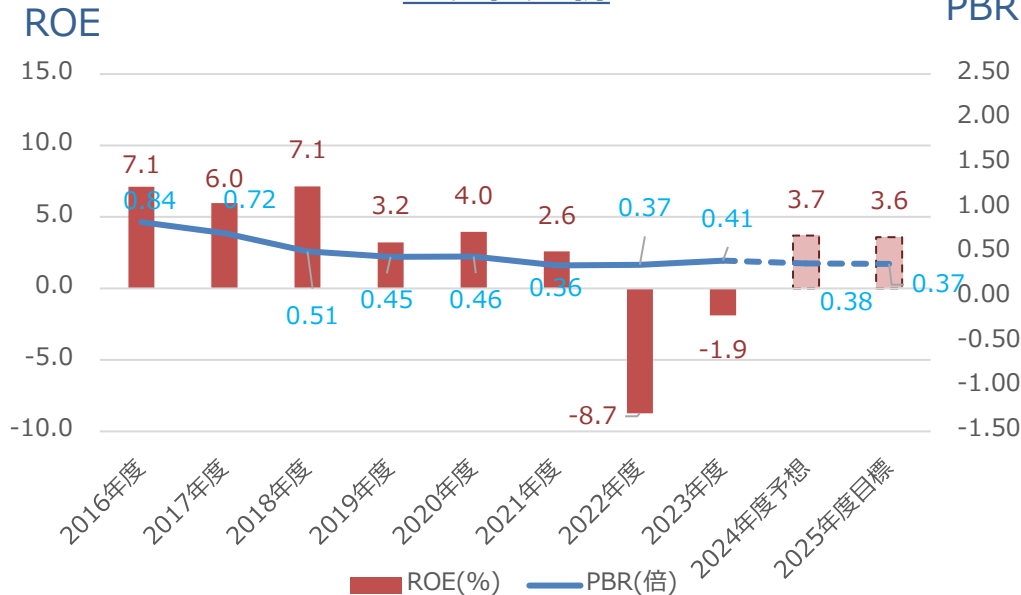


## 2024-2025年度 2カ年累計（イメージ）



# 資本コストや株価を意識した経営の実現に向けた対応

## ☑現状分析



PBR

- 資本コスト (WACC) は4-5%程度
- 2016年0.8倍を上回る水準まで改善 (2017年一時的に1倍超)

↓ 2022年度および2023年度は純損失  
現在はPBR0.5倍を下回る状態継続

資本効率の重要な指標として  
ROICも検討中

## ☑PBR改善に向けた取り組み

ROE

ROE > 株主資本コスト & ROIC > WACC

(事業の収益性の回復と安定性)

- 中期経営実行計画の各施策を推進・実現
- 事業ポートフォリオ改革の見直しを継続
- マイルストーン

ROE7%・ROIC5%達成 ⇒さらなる向上

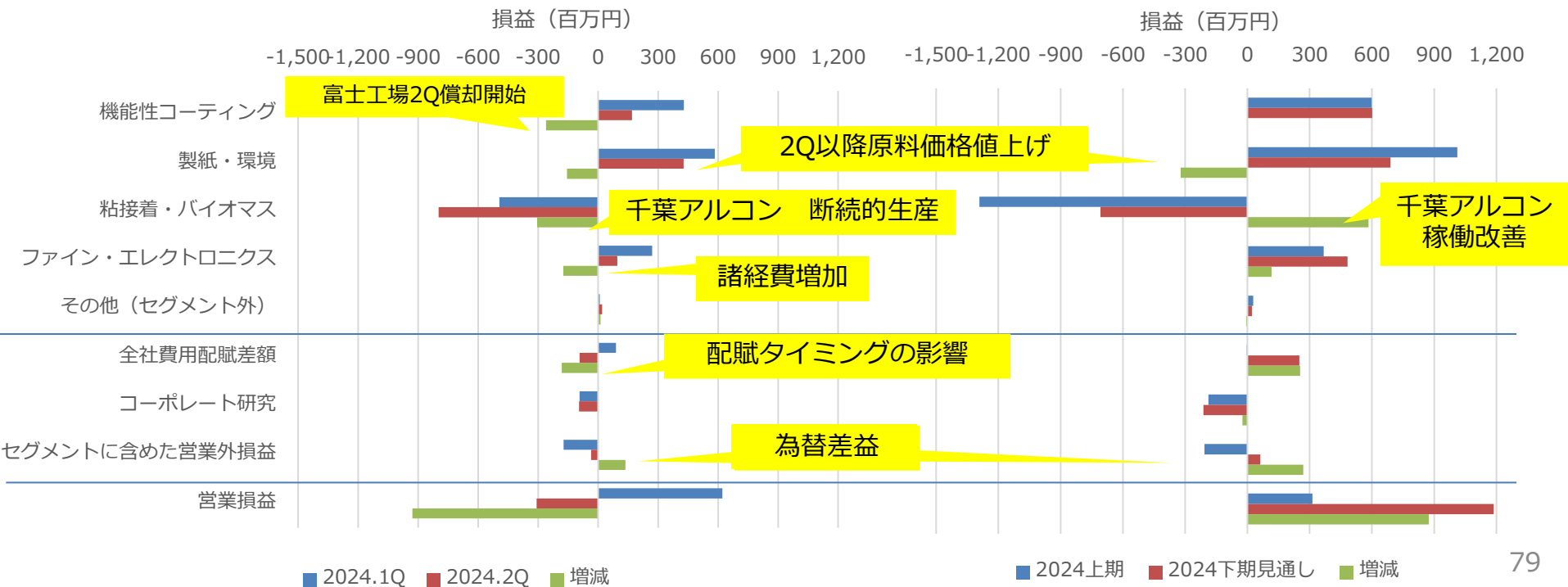
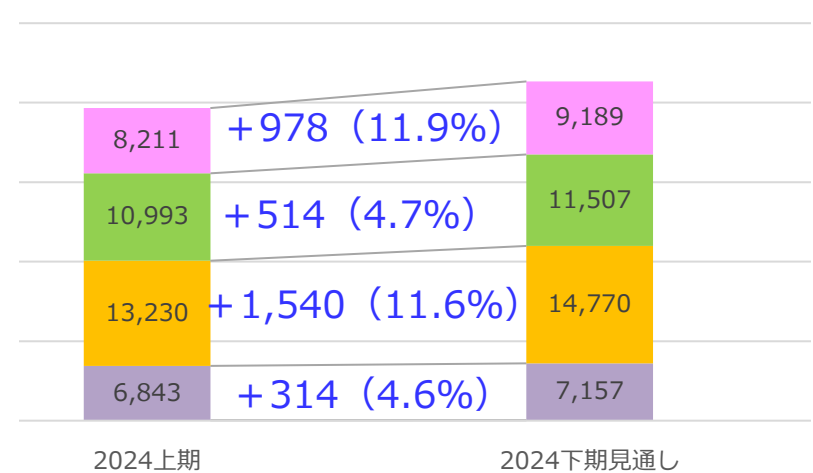
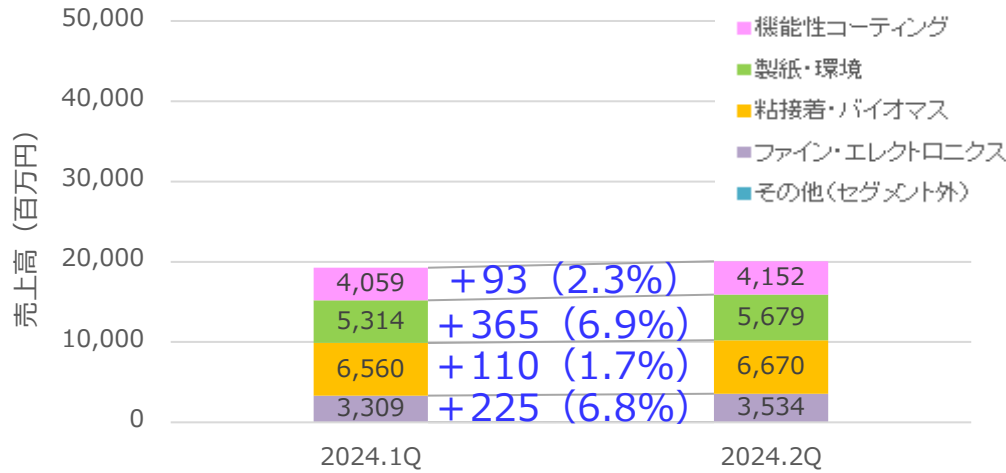
PBR

PER

(企業価値の向上)

- 新規事業の創出による期待度アップ
- 中長期的な収益の成長性
- 積極的な情報開示

# 2024年度1Q2Q・上下期売上高/損益増減



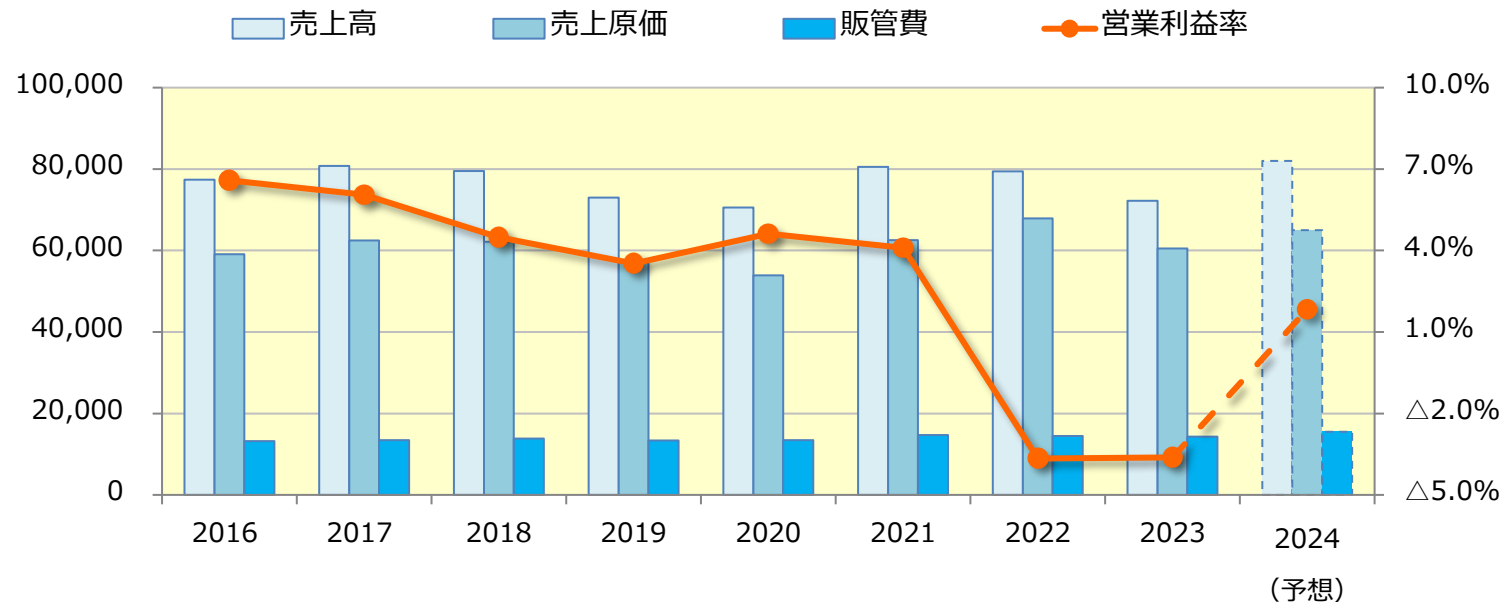


# 売上原価・販売管理費推移

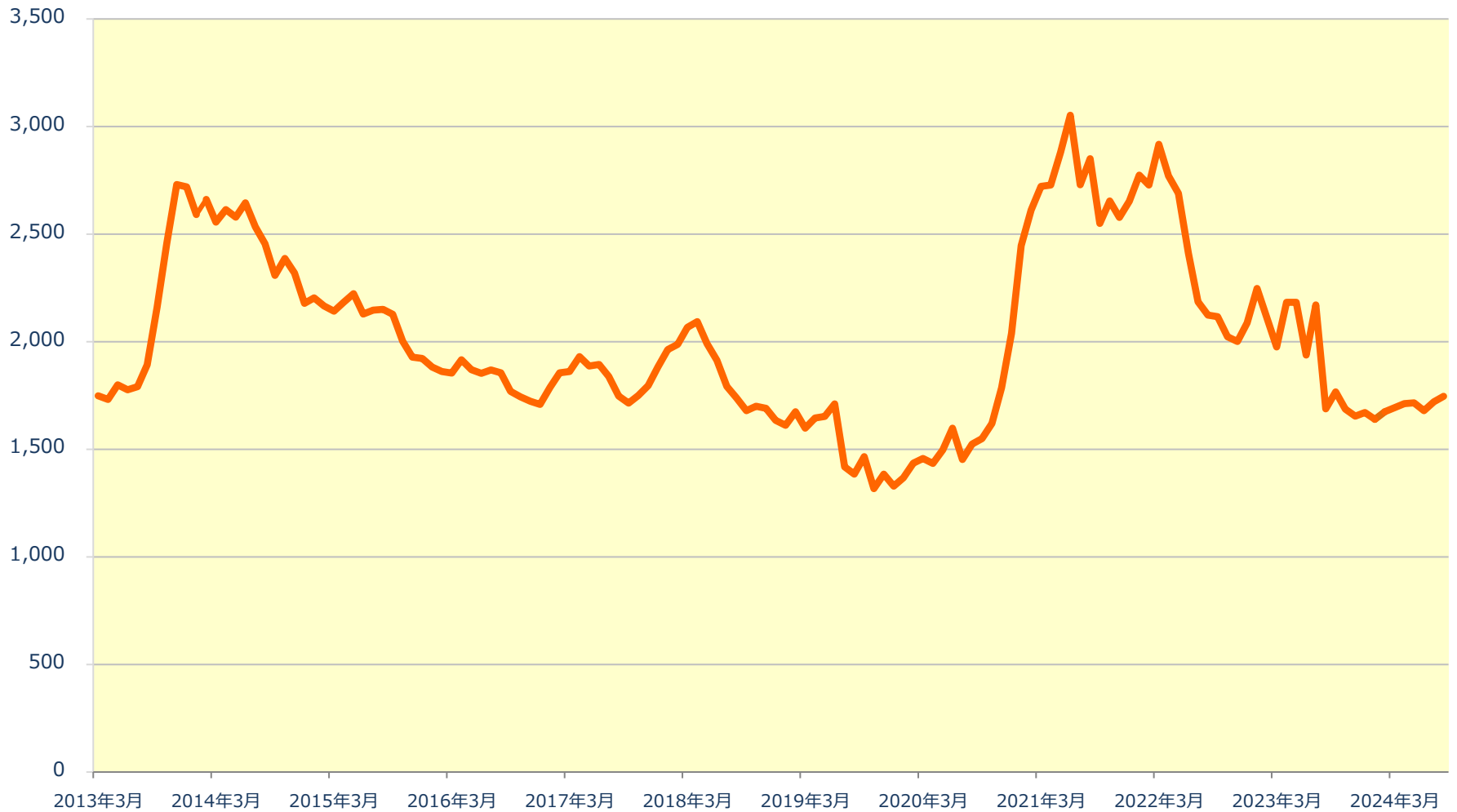
(百万円)

年度	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022	2023	2024 (予想)
売上高	77,380	80,782	79,501	72,967	70,572	80,515	79,431	72,222	82,000
売上原価	59,111	62,478	62,123	57,014	53,884	62,544	67,859	60,540	65,000
販管費	13,173	13,410	13,813	13,378	13,431	14,667	14,479	14,299	15,500
営業利益	5,095	4,892	3,564	2,574	3,257	3,304	△ 2,907	△ 2,617	1,500
営業利益率	6.6%	6.1%	4.5%	3.5%	4.6%	4.1%	△3.7%	△3.6%	1.8%
売上原価率	76.4%	77.3%	78.1%	78.1%	76.4%	77.7%	85.4%	83.8%	79.3%
販管費率	17.0%	16.6%	17.4%	18.4%	19.0%	18.2%	18.2%	19.8%	18.9%

(百万円)



# ロジン価格の推移



# 株価推移



# 株式情報

証券コード	4968
決算期	3月
上場取引所	プライム市場
単元株	100株
株価	1,108円 (2024年11月27日15:30時点)
最低所要金額	110,800円
配当利回り	4.33%
P/E R	10.47倍
P/B R	0.38倍
発行済株数	20,652,400株 (2024年3月末時点)
長期発行体格付	BBB+ : 安定的 (JCR)

MEMO



MEMO





MEMO

